

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年2月13日
【四半期会計期間】	第89期第3四半期（自平成24年10月1日至平成24年12月31日）
【会社名】	丸紅株式会社
【英訳名】	Marubeni Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役 取締役社長 朝田 照 男
【本店の所在の場所】	東京都千代田区大手町一丁目4番2号
【電話番号】	03 - 3282 - 2111（大代表）
【事務連絡者氏名】	経理部長 郡 司 和 朗
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区大手町一丁目4番2号
【電話番号】	03 - 3282 - 2111（大代表）
【事務連絡者氏名】	経理部長 郡 司 和 朗
【縦覧に供する場所】	丸紅株式会社大阪支社  （大阪市中央区本町二丁目5番7号）  丸紅株式会社名古屋支社  （名古屋市中区錦二丁目2番2号）  株式会社東京証券取引所  （東京都中央区日本橋兜町2番1号）  株式会社名古屋証券取引所  （名古屋市中区栄三丁目8番20号）  株式会社大阪証券取引所  （大阪市中央区北浜一丁目8番16号）

## 第一部【企業情報】

## 第1【企業の概況】

## 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第88期 第3四半期 連結累計期間	第89期 第3四半期 連結累計期間	第88期
会計期間	自平成23年4月1日 至平成23年12月31日	自平成24年4月1日 至平成24年12月31日	自平成23年4月1日 至平成24年3月31日
収益 (百万円) (第3四半期連結会計期間)	3,239,642 (996,094)	3,603,414 (1,224,258)	4,390,353
売上総利益 (百万円)	404,101	388,405	541,454
当社株主に帰属する四半期(当期)純利益(百万円) (第3四半期連結会計期間)	141,253 (38,223)	152,450 (47,149)	172,125
当社株主に帰属する 四半期(当期)包括損益合計 (百万円)	40,143	169,868	107,001
売上高 (百万円) (第3四半期連結会計期間)	7,652,762 (2,502,307)	7,697,794 (2,617,148)	10,584,393
株主資本 (百万円)	785,207	980,147	852,172
純資産額 (百万円)	847,287	1,035,441	915,770
総資産額 (百万円)	4,848,778	5,525,636	5,129,887
基本的1株当たり 当社株主に帰属する四半期(当期)純利益(円) (第3四半期連結会計期間)	81.35 (22.01)	87.81 (27.16)	99.13
潜在株式調整後1株当たり 当社株主に帰属する四半期(当期)純利益(円)	-	-	-
株主資本比率 (%)	16.19	17.74	16.61
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	3,809	5,136	172,599
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	187,259	146,166	273,689
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	122,205	193,068	171,913
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	533,281	729,954	677,312

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 当社の連結財務諸表は米国会計基準に拠っております。

3 売上高については、日本の投資家の便宜を考慮して、日本の会計慣行に従い表示しております。なお、収益及び売上高には、消費税等を含めておりません。

4 株主資本については、当社の連結財務諸表における当社株主資本を表示しております。

5 潜在株式調整後1株当たり当社株主に帰属する四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2【事業の内容】

当社及び連結子会社は、国内外のネットワークを通じて、食料、繊維、資材、紙パルプ、化学品、エネルギー、金属、機械、金融、物流、情報関連、開発建設その他の広範な分野において、輸出入（外国間取引を含む）及び国内取引の他、各種サービス業務、内外事業投資や資源開発等の事業活動を多角的に展開しております。

当社グループにおいてかかる事業を推進する連結対象会社は、連結子会社284社、持分法適用関連会社155社、合計439社から構成されております。（注）1

当社はこれらの事業を、オペレーティング・セグメントとして10の商品別セグメントと海外支店・現地法人に分類しております。当社グループのオペレーティング・セグメント毎の取扱商品・サービス内容及び主要な関係会社名は次の通りであります。

	取扱商品・サービスの内容	主要な関係会社名	
		子会社	関連会社
食料	国内及び海外において、飼料穀物、大豆、小麦、砂糖、加工食品・飲料及びその原料、業務用食材、農水畜産物等、食に係る商品の製造事業や売買を行っております。	子会社	日清丸紅飼料、パシフィックグリーンセンター、ナックスナカムラ、山星屋、Iguaçu de Café Solúvel、Columbia Grain
		関連会社	東洋精糖、日清オイリオグループ、ダイエー、マルエツ、東武ストア、Acecook Vietnam
ライフスタイル	国内及び海外において、衣料・フットウェア・生活用品・スポーツ用品・フィットネス機器・タイヤ等、消費者のライフスタイルに係る商品を幅広く取り扱い、商品の企画・製造・輸入・卸売販売からブランド展開・コンサルティング・事業投資まで様々な事業を展開し、多様なサービスを提供しております。	子会社	丸紅ファッションリンク、丸紅インテックス、丸紅メイト、Marubeni International Commodities (Singapore)
		関連会社	ファブリカ
紙パルプ	国内及び海外において、製紙原料、洋紙、板紙等の製造・販売、植林事業への参画及び住宅資材の販売を行っております。	子会社	丸紅紙パルプ販売、興亜工業、丸紅建材、Tanjungenim Lestari Pulp and Paper
		関連会社	丸住製紙、Daishowa-Marubeni International
化学品	国内及び海外において、石油化学品等の川上から電子材料・機能化学品・農薬等の川下に至るまで多種多様の製品を取り扱っております。中国、米州、中東、東南アジア、インドを重要地域として位置付け、事業投資とトレードの両面でバランスの良いビジネス展開を図っております。	子会社	丸紅ブラックス、丸紅ケミックス
		関連会社	Dampier Salt、Shen Hua Chemical Industrial
エネルギー	国内及び海外において、石油・ガス等多岐にわたるエネルギー関連の商材について、資源開発を中心とした川上からガソリンスタンドに至る川下まであらゆる段階で事業参画しております。	子会社	丸紅エネルギー、Marubeni Oil & Gas (USA)
		関連会社	ENEOSグループ、Shenzhen Sino-Benny LPG
金属	国内及び海外において、非鉄軽金属の製造・加工・販売及び鉄鋼、非鉄軽金属の原料資源の売買、並びに鋼板、鋼管、特殊鋼等の鉄鋼製品全般の生産・加工・販売事業を行っております。また、鉄鋼、非鉄軽金属の原料資源の海外における開発事業を行っております。	子会社	丸紅メタル、丸紅テツゲン、Marubeni Los Pelambres Investment、Marubeni Aluminium Australia、Marubeni Coal
		関連会社	伊藤忠丸紅鉄鋼、丸紅建材リース、Toyo-Memory Technology、Resource Pacific Holdings
輸送機	国内及び海外において、航空機・防衛関連機器・自動車・建設機械・農業機械等の輸送関連機械の輸出入と、これら輸送機を取り扱う、卸売・小売・販売金融・リース事業・製品開発・各種サービス事業等の分野への投融資を、幅広く行っております。また、各種貨物船・タンカー・LNG船等の取引・保有・運航事業を行っております。	子会社	丸紅エアロスペース、スカレットLNG輸送、Marubeni Aviation Services、Marubeni Auto & Construction Machinery America、Royal Maritime
		関連会社	MD Aviation Capital

	取扱商品・サービスの内容	主要な関係会社名	
電力・インフラ	国内及び海外において、各種電力・インフラ事業、特に発電事業（造水・コジェネ・風力含む）及び上下水道事業の開発・投資・運営に加え、発電・送変電設備及び上下水道関連の機器納入並びに工事請負、その他新エネルギー関連分野の投融資を行っております。	子会社	丸紅パワーシステムズ、丸紅電力開発、日本洋上風力（注）2、Axia Power Holdings、Aguas Decima
		関連会社	TeaM Energy、Lion Power（2008）、Southern Cone Water（注）3
プラント・産業機械	国内及び海外において、石油・ガス・化学・環境・製鉄・セメント・紙パルプ等のプラント、鉄道・空港等の交通インフラ、繊維機械・新エネルギー設備・自動車生産設備等の産業機械の各分野において、関連機器の納入・工事請負並びに事業案件の開発・運営を行っております。また、クリーン開発メカニズム(CDM)等の環境プロジェクトにも取り組んでおります。	子会社	丸紅テクマテックス、丸紅プロテックス、丸紅テクノシステム、Midwest Railcar
		関連会社	加地テック、Energy Infrastructure Investments
金融・物流・情報	国内及び海外において、金融分野ではファンドの運営、リース事業、金融商品のトレーディング等を展開し、保険分野では保険仲介業、再保険事業等に取り組み、物流分野ではフォワーディング事業及び物流センター事業等を行っております。情報産業分野ではデータ通信ネットワーク事業、システムソリューション事業、モバイル端末販売事業、BPO事業の他、通信・放送・情報システムの輸出・三国間取引等、幅広い分野に取り組んでおります。	子会社	丸紅物流、丸紅セーフネット、丸紅テレコム、丸紅情報システムズ、丸紅アクセスソリューションズ
		関連会社	エムジーリース、Shanghai Jiaoyun Rihong International Logistics、Eastern Sea Laem Chabang Terminal
海外支店・現地法人	米州、欧州、アジアをはじめ世界各地に所在しており、各種商品の売買及びそれらに係る事業活動を行っております。	現地法人	丸紅米国会社、丸紅欧州会社、丸紅アセアン会社、丸紅中国会社
全社（本部・管理等）	財務・金融サービス、グループファイナンス、開発建設事業等を行っております。	子会社	丸紅フィナンシャルサービス、丸紅パーソナルマネジメント、丸紅不動産、丸紅コミュニティ、Shanghai House Property Development、Marubeni Finance America、Marubeni Finance Europe

- （注）1 連結子会社及び持分法適用関連会社数には、当社が直接連結経理処理を実施している会社のみ含めており、連結子会社が連結経理処理している関係会社（287社）はその数から除外しております。
- 2 日本洋上風力は、英国洋上風力据付大手Seajacks Internationalの持株会社であります。
- 3 Southern Cone Waterは、チリにおいて上下水道のフルサービスを提供するAguas Nuevasの持株会社であります。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

## 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

## (1)業績の状況

(単位：百万円)

	当第3四半期 連結累計期間	前第3四半期 連結累計期間	増減
売上高	7,697,794	7,652,762	45,032
売上総利益	388,405	404,101	15,696
営業利益	95,646	125,979	30,333
持分法による投資損益	69,880	61,600	8,280
当社株主に帰属する 四半期純利益	152,450	141,253	11,197
収益	3,603,414	3,239,642	363,772

売上高は、穀物分野、石油トレーディング分野及びLNG分野での取扱高増加等により、前第3四半期連結累計期間比450億円(0.6%)増収の7兆6,978億円となりました。売上総利益は、主に電力・インフラ、金属及び食料セグメントで減益となったこと等から、前第3四半期連結累計期間比157億円(3.9%)減益の3,884億円、営業利益は303億円(24.1%)減益の956億円となりました。当社株主に帰属する四半期純利益(以下、四半期純利益)は、チリ銅事業での持分法による投資損益の増益に加え、有価証券損益の増益や為替差損益の改善等があったことにより、前第3四半期連結累計期間比112億円(7.9%)増益の1,525億円となりました。中期経営計画SG-12において目標としている当連結会計年度の連結純利益2,000億円に対する進捗率は76.2%と順調に推移しております。

なお、米国会計基準に基づく「収益」は、3兆6,034億円と、前第3四半期連結累計期間比3,638億円(11.2%)の増収となりました。

当社におけるオペレーティング・セグメント別の業績を示すと次の通りであります。

食料：

(単位：百万円)

	当第3四半期 連結累計期間	前第3四半期 連結累計期間	増減
売上高	1,674,025	1,515,860	158,165
売上総利益	74,710	81,345	6,635
営業利益	13,649	24,674	11,025
持分法による投資損益	43	1,212	1,169
当社株主に帰属する 四半期純利益	3,907	14,947	11,040

売上高は、親会社で穀物取扱数量増加、穀物単価上昇等により、前第3四半期連結累計期間比1,582億円（10.4%）増収の1兆6,740億円となりました。売上総利益は、食糧関連事業の減益等が影響し、前第3四半期連結累計期間比66億円（8.2%）減益の747億円となり、営業利益は110億円（44.7%）減益の136億円となりました。これらに加え、持分法による投資損益の減益があったことから、四半期純利益は、前第3四半期連結累計期間比110億円（73.9%）減益の39億円となりました。

ライフスタイル：

(単位：百万円)

	当第3四半期 連結累計期間	前第3四半期 連結累計期間	増減
売上高	294,730	309,953	15,223
売上総利益	23,356	23,265	91
営業利益	7,573	7,654	81
持分法による投資損益	265	372	107
当社株主に帰属する 四半期純利益	4,942	4,200	742

売上高は、事業会社（Marubeni International Commodities (Singapore)、UNIMAC Rubber）において天然ゴムの販売価格が下落したこと等により、前第3四半期連結累計期間比152億円（4.9%）減収の2,947億円となりました。売上総利益は、前第3四半期連結累計期間比1億円（0.4%）増益の234億円となったものの、営業利益は、経費増により1億円（1.1%）減益の76億円となりました。持分法による投資損益は、欧州におけるタイヤ販売会社の減益により、前第3四半期連結累計期間比1億円（28.8%）減益の3億円となりました。一方、四半期純利益は、前年同期に計上した上場株式の評価損の反動に加え、今期上場株式の売却益を計上したことから、前第3四半期連結累計期間比7億円（17.7%）増益の49億円となりました。

平成24年12月に米国のコンベヤベルト関連ディストリビューターのAll-State Beltingを買収しました。平成19年に買収したカナダのBelterraと合わせた丸紅グループの北米でのコンベヤベルトの取扱いはトップクラスとなり、今後も同分野におけるシェア拡大を目指すとともに、ゴム分野における川上から川下までのバリューチェーン強化を進めてまいります。

## 紙パルプ： (単位：百万円)

	当第3四半期 連結累計期間	前第3四半期 連結累計期間	増減
売上高	369,137	395,775	26,638
売上総利益	20,800	23,402	2,602
営業利益	3,813	6,721	2,908
持分法による投資損益	10	910	920
当社株主に帰属する四半期 純利益又は純損失( )	106	4,207	4,313

売上高は、パルプ単価下落、チップの取扱数量減等により、前第3四半期連結累計期間比266億円(6.7%)減収の3,691億円となりました。売上総利益は、紙・板紙製品分野の減益、チップ関連収益の悪化等により、前第3四半期連結累計期間比26億円(11.1%)減益の208億円となり、営業利益は29億円(43.3%)減益の38億円となりました。持分法による投資損益は、パルプ単価下落によるDaishowa-Marubeni Internationalの採算悪化等により、前第3四半期連結累計期間比9億円(-%)の悪化となりました。これらに加え、上場株式の評価損があったことから、四半期純損失は、前第3四半期連結累計期間比43億円(-%)悪化の1億円(損失)となりました。

当第3四半期連結累計期間に紙・板紙製品分野では、インドにおける段ボール加工事業進出を目的として、インド製紙大手のJK Paperとともに、王子ホールディングスが既に設立しているインド現地法人Oji India Packaging Private の第三者割当増資を引き受け、当社を含む3社による合併事業を開始することで合意しました。今後は、本事業を機にインド市場参入を果たし、紙・板紙事業の拡大を図ってまいります。

合併事業開始後に、Oji JK Packaging Privateへ社名変更予定

## 化学品： (単位：百万円)

	当第3四半期 連結累計期間	前第3四半期 連結累計期間	増減
売上高	720,444	732,837	12,393
売上総利益	20,334	19,412	922
営業利益	4,582	4,222	360
持分法による投資損益	1,393	4,001	2,608
当社株主に帰属する 四半期純利益	5,683	6,029	346

売上高は、中国向け液晶パネル製造装置の取扱数量減、塩ビアルカリ製品市況の下落等により、前第3四半期連結累計期間比124億円(1.7%)減収の7,204億円となりました。売上総利益は、石油化学製品の採算改善、欧州農薬販売会社の増益等により、前第3四半期連結累計期間比9億円(4.7%)増益の203億円となり、営業利益は4億円(8.5%)増益の46億円となりました。持分法による投資損益は、海外合成ゴム製造販売会社の採算悪化等により、前第3四半期連結累計期間比26億円(65.2%)減益の14億円となりました。この結果、四半期純利益は、前第3四半期連結累計期間比3億円(5.7%)減益の57億円となりました。

## エネルギー： (単位：百万円)

	当第3四半期 連結累計期間	前第3四半期 連結累計期間	増減
売上高	2,369,598	2,123,142	246,456
売上総利益	41,936	46,210	4,274
営業利益	21,592	26,748	5,156
持分法による投資損益	553	232	321
当社株主に帰属する 四半期純利益	31,029	34,314	3,285

売上高は、石油トレーディング分野の取扱数量増、LNG分野の輸入取扱増等により、前第3四半期連結累計期間比2,465億円(11.6%)増収の2兆3,696億円となりました。売上総利益は、石油・ガス開発分野の減益等により、前第3四半期連結累計期間比43億円(9.2%)減益の419億円、営業利益は52億円(19.3%)減益の216億円となりました。四半期純利益は、営業利益の減益により、前第3四半期連結累計期間比33億円(9.6%)減益の310億円となりました。

当第3四半期連結累計期間に大分県大分市の大分臨海工業地帯6号地に発電出力8万1,500キロワットのメガソーラーを建設し、発電事業を行うことを決定しました。平成24年11月に着工、平成26年3月に発電所を完成し、操業を開始する予定です。

## 金属： (単位：百万円)

	当第3四半期 連結累計期間	前第3四半期 連結累計期間	増減
売上高	591,888	703,735	111,847
売上総利益	14,860	22,811	7,951
営業利益	3,635	11,988	8,353
持分法による投資損益	29,362	29,726	364
当社株主に帰属する 四半期純利益	39,828	33,367	6,461

売上高は、鉄鋼原料、非鉄軽金属の価格下落により、前第3四半期連結累計期間比1,118億円(15.9%)減収の5,919億円となりました。売上総利益は、鉄鋼原料、軽金属の価格下落等により、前第3四半期連結累計期間比80億円(34.9%)減益の149億円、営業利益は84億円(69.7%)減益の36億円となりました。持分法による投資損益は、チリ銅事業で増益があったものの、海外石炭事業、伊藤忠丸紅鉄鋼の減益により、前第3四半期連結累計期間比4億円(1.2%)減益の294億円となりました。一方、四半期純利益は、有価証券損益の増益等があったことから、前第3四半期連結累計期間比65億円(19.4%)増益の398億円となりました。

輸送機： (単位：百万円)

	当第3四半期 連結累計期間	前第3四半期 連結累計期間	増減
売上高	447,765	567,497	119,732
売上総利益	35,169	32,040	3,129
営業利益	7,984	7,099	885
持分法による投資損益	10,230	6,205	4,025
当社株主に帰属する 四半期純利益	18,483	10,854	7,629

売上高は、航空機関連事業及び船舶関連取引の減収により、前第3四半期連結累計期間比1,197億円(21.1%)減収の4,478億円となりました。売上総利益は、建設機械及び農業機械関連事業の新規連結の影響により、前第3四半期連結累計期間比31億円(9.8%)増益の352億円、営業利益は9億円(12.5%)増益の80億円となりました。持分法による投資損益は、LNG船用船事業及び米国自動車販売金融事業の貢献により、前第3四半期連結累計期間比40億円(64.9%)増益の102億円となりました。これらに加え、資産売却益等があったことから、四半期純利益は、前第3四半期連結累計期間比76億円(70.3%)増益の185億円となりました。

電力・インフラ： (単位：百万円)

	当第3四半期 連結累計期間	前第3四半期 連結累計期間	増減
売上高	263,407	280,919	17,512
売上総利益	17,124	27,832	10,708
営業利益又は損失( )	703	7,697	8,400
持分法による投資損益	21,420	16,714	4,706
当社株主に帰属する 四半期純利益	20,269	18,560	1,709

売上高は、親会社でのタイのチャナ2号機・ワンノイ4号機大型複合火力発電所拡張案件の進捗等があったものの、カリブ垂直統合型電力事業案件の関連会社化の影響等により、前第3四半期連結累計期間比175億円(6.2%)減収の2,634億円となりました。売上総利益は、カリブ垂直統合型電力事業案件の関連会社化の影響により、前第3四半期連結累計期間比107億円(38.5%)減益の171億円となり、営業損失は84億円(-%)悪化の7億円(損失)となりました。持分法による投資損益は、フィリピンTeaM Energy、インドネシアPaiton 2案件及びチリAgua Nuevas案件の増益等により、前第3四半期連結累計期間比47億円(28.2%)増益の214億円となりました。四半期純利益は、法人税負担の改善等により、前第3四半期連結累計期間比17億円(9.2%)増益の203億円となりました。

当第3四半期連結累計期間に海外電力事業分野では、北米での風力発電事業であるLakefield Wind Project(フランス大手電力会社EDFの北米における再生可能エネルギー発電事業会社が保有)への出資参画やインドネシアRantau Dedap地熱発電プロジェクトの長期売電契約締結等の進捗がありました。海外電力EPC(機器納入・工事請負)分野では、バングラデシュのピピヤナ複合火力発電所建設請負契約の締結やインド政府系電力会社より複合火力発電所リハビリ契約受注、水事業分野でもフィリピン・マニラ首都圏上下水道事業へ参画決定する等、各分野での進捗がありました。今後とも国内外の公共事業分野における社会的な貢献を追求するとともに、安定的な収益基盤拡大のため積極的な事業展開を続けてまいります。

## プラント・産業機械：

(単位：百万円)

	当第3四半期 連結累計期間	前第3四半期 連結累計期間	増減
売上高	218,781	309,387	90,606
売上総利益	18,735	17,126	1,609
営業利益	959	1,427	468
持分法による投資損益	1,786	2,077	291
当社株主に帰属する 四半期純利益	4,538	2,359	2,179

売上高は、アンゴラでの繊維工場リハビリ案件において増収となったものの、中国・東南アジアにおけるエネルギー・化学プラント案件の取扱高減少や、繊維機械を取り扱う丸紅テクマテックス、産業機械を取り扱う丸紅テクノシステムの取扱高減少等があったことから、前第3四半期連結累計期間比906億円（29.3%）減収の2,188億円となりました。売上総利益は、売上高の減収があったものの、アンゴラ案件の増益等により、前第3四半期連結累計期間比16億円（9.4%）増益の187億円となりました。営業利益は、前年同期に海外工事案件の債権回収における貸倒引当金の戻りがあったこと等により、前第3四半期連結累計期間比5億円（32.8%）減益の10億円となりました。四半期純利益は、持分法による投資損益の減益があったものの、有価証券損益の増益により、前第3四半期連結累計期間比22億円（92.4%）増益の45億円となりました。

前連結会計年度までに受注したアンゴラでの繊維工場リハビリ案件、東南アジアにおける製紙関連プラント案件等の契約履行は順調に推移しており、当第3四半期連結累計期間の利益に寄与しております。また、当第3四半期連結累計期間においては、ベネズエラ国鉄向け増備車両納入案件、ウクライナでの炭鉱地下水飲料水化設備供給案件、パラオでの首都圏電力供給能力向上案件を受注しました。今後も、受注済み案件の履行、事業案件の管理・運営を確実に行うとともに、新規プラント案件の受注、新規事業案件への参画、優良資産の積増しを継続して推進します。

## 金融・物流・情報：

(単位：百万円)

	当第3四半期 連結累計期間	前第3四半期 連結累計期間	増減
売上高	150,451	133,270	17,181
売上総利益	32,087	30,700	1,387
営業利益	3,109	2,564	545
持分法による投資損益	3,638	785	4,423
当社株主に帰属する 四半期純利益	6,856	2,580	4,276

売上高は、丸紅テレコムにおけるスマートフォンの販売が好調だったこと等により、前第3四半期連結累計期間比172億円（12.9%）増収の1,505億円となりました。売上総利益は、既存の事業会社が順調に増益となったことに加え、金融事業のファンド報酬増等により、前第3四半期連結累計期間比14億円（4.5%）増益の321億円となり、営業利益は5億円（21.3%）増益の31億円となりました。持分法による投資損益は、シンガポールの再保険会社グループであるACR Capital Holdingsの新規持分法適用による増益等で、前第3四半期連結累計期間比44億円（-%）改善の36億円となりました。この結果、四半期純利益は、前第3四半期連結累計期間比43億円（165.7%）増益の69億円となりました。

海外支店・現地法人：

(単位：百万円)

	当第3四半期 連結累計期間	前第3四半期 連結累計期間	増減
売上高	1,551,692	1,427,988	123,704
売上総利益	81,406	74,562	6,844
営業利益	23,217	19,699	3,518
持分法による投資損益	691	543	148
当社株主に帰属する 四半期純利益	13,672	12,441	1,231

売上高は、米国会社における穀物や輸送機取引の増加、同社傘下の農薬・肥料販売事業会社Helena Chemicalの増収により、前第3四半期連結累計期間比1,237億円（8.7%）増収の1兆5,517億円となりました。売上総利益は、Helena Chemicalの増益により、前第3四半期連結累計期間比68億円（9.2%）増益の814億円となり、営業利益は35億円（17.9%）増益の232億円となりました。この結果、四半期純利益は、前第3四半期連結累計期間比12億円（9.9%）増益の137億円となりました。

- (注) 1 売上高及び営業利益又は損失については、日本の投資家の便宜を考慮して、日本の会計慣行に従い表示しております。営業利益又は損失は四半期連結損益計算書における「売上総利益」、「販売費及び一般管理費」及び「貸倒引当金繰入額」の合計として算出しております。
- 2 セグメント間取引は、通常の市場価格によって行われております。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における「現金及び現金同等物」の残高は、前連結会計年度末から526億円(7.8%)増加し、7,300億円となりました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下の通りであります。

(営業活動による純キャッシュ・フロー)

海外の資源関連の子会社を中心に営業収入が堅調であったものの、営業資金負担の増加の影響により、51億円の支出となりました。前第3四半期連結累計期間比では13億円の支出の増加であります。

(投資活動による純キャッシュ・フロー)

国内上場株式売却収入があった一方で、海外資源関連や発電事業への新規投融資の実行等により、1,462億円の支出となりました。前第3四半期連結累計期間比では411億円の支出の減少であります。

以上により、当第3四半期連結累計期間のフリーキャッシュ・フローは、前第3四半期連結累計期間比398億円増加し、1,513億円の支出となりました。

(財務活動による純キャッシュ・フロー)

新規投融資に伴う資金需要を満たすべく借入金及び社債による資金調達を行った結果、1,931億円の収入となりました。前第3四半期連結累計期間比では709億円の収入の増加であります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当社グループは、平成22年4月より3ヶ年の中期経営計画「SG-12」をスタートしております。

「SG-12」では、“期待を超えるパートナー”として、お取引先を含む全てのステークホルダーの皆様の信頼獲得を追求するとともに、経営環境の変化にも耐えうる強固な収益基盤と盤石な財務基盤を確立し、持続的成長へ挑戦しております。

平成24年度における、「SG-12」の計数目標に対する進捗状況は次の通りであります。

経営指標	目標	当第3四半期 連結累計期間
当社株主に帰属する 当期純利益	平成24年度 2,000億円	1,525億円
連結ネットD/Eレシオ	1.8倍程度	1.96倍
リスクアセット	連結純資産の範囲内	
ROE	安定的に15%以上	

「SG-12」では、当初3ヶ年で7,500億円の新規投融資を計画しておりましたが、収益基盤拡充のスピードをさらに加速させるべく、先般発表を行いましたGavilon社買収のように当社の成長に資する優良案件については追加的に実施することを検討していきます。一方、資金効率の更なる改善、資産入れ替え等により、当連結会計年度末ネットD/Eレシオ目標「1.8倍程度」を達成する方針です。

当第3四半期連結累計期間では、合計で約1,700億円の新規投融資を実行しました。主な内容としては、豪州ロイヒル鉄鉱山プロジェクト開発資金の拠出やチリAntucoya銅鉱山開発事業への参画、シンガポール再保険会社ACR Capital Holdingsの第三者割当増資引き受け、英国洋上風力据付大手Seajacks Internationalの買収等です。

(将来に関する記述等についてのご注意)

本報告書に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が当四半期報告書提出日現在において入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

(4) 研究開発活動

特に記載すべき事項はありません。

(5) 主要な設備の状況

当第3四半期連結累計期間において、当社の在外子会社Marubeni Shale Investment LLCは米国テキサス州・イーグルフォード・シェールオイルガス田に保有する開発・生産権益の開発につき、追加投資を行っております。追加投資による当該設備の増加額は次の通りです。

オペレーティング・セグメントの名称	会社名	設備の内容	事業所名 (所在地)	従業員数 (人)	土地		建物及び 構築物 帳簿価額 (百万円)	その他の 投下資本 の帳簿価 額 (百万円)	備考
					面積 (㎡)	帳簿価額 (百万円)			
エネルギー	Marubeni Shale Investment	米国テキサス州シェールオイル・ガス権益	本社 (Texas, U.S.A.)					22,017	

(6) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当第3四半期連結累計期間の経済環境を概観しますと、債務問題を抱える欧州の景気悪化や新興国における過去の引き締め政策を通じて、世界全体として回復力の弱い状態が続きました。この間、商品市況は、世界経済の減速等を背景に年央にかけて弱含みました。その後、市場におけるリスク回避姿勢の後退等により持ち直しましたが、年後半にかけて再び緩やかに下落しました。

米国経済は、年央にかけて生産や雇用を中心に減速が見られましたが、自動車販売や住宅販売を中心とした家計部門の回復により年後半には持ち直しの動きも見られました。

欧州経済は、ユーロ圏の銀行監督一元化に向けた動きや欧州中央銀行による国債購入計画の発表等、金融資本市場の安定化策の導入により、市場は若干落ち着きを見せました。一方で、ギリシャ、スペイン等、緊縮財政を余儀なくされている国を中心に生産活動の悪化が続き、全体として景気が低迷しました。

アジア経済は、内需を背景に底堅い成長が続いているものの、世界経済の減速や、過去の引き締め政策の影響等により景気は減速しました。一方、年後半にかけては、投資を中心に中国経済の一部指標が改善し始める等、持ち直しの兆しが見られました。

日本経済は、復興需要やエコカー補助金等の政策効果が景気の下支えとなっていたものの、補助金効果の剥落による消費の減少、輸出の低迷を背景に、落ち込みを見せました。

こうした状況下、当第3四半期連結会計期間末における「SG-12」の進捗状況については、以下の通りであります。

当第3四半期連結累計期間の当社株主に帰属する四半期純利益は、前第3四半期連結累計期間比112億円(7.9%)増益の1,525億円となりました。この結果、「SG-12」の計数目標として掲げている平成24年度の当社株主に帰属する当期純利益2,000億円に対する進捗率は76.2%となりました。オペレーティング・セグメント別の業績につきましては、「3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」の「(1)業績の状況」をご参照願います。

連結純資産は、有価証券正味未実現損益が減少したものの、利益の積み上げ及び外貨換算調整定の改善により、前連結会計年度末比1,197億円増加の1兆354億円となりました。連結ネット有利子負債は、同2,696億円増加の2兆253億円となったことから、連結ネットD/Eレシオは同0.04ポイント上昇の1.96倍となりました。

なお、当連結会計年度は、同「(3)事業上及び財務上の対処すべき課題」で記載の通り、中期経営計画「SG-12」を着実に推進し、“期待を超えるパートナー”として、お取引先を含む全てのステークホルダーの皆様への信頼獲得を追求するとともに、経営環境の変化にも耐えうる強固な収益基盤と盤石な財務基盤を確立し、持続的成長へ挑戦します。

(将来に関する記述等についてのご注意)

本報告書に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が当四半期報告書提出日現在において入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

(7) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

財政状態

当第3四半期連結会計期間末の連結総資産は、新規投資及び有形固定資産等の増加により、前連結会計年度末比3,957億円増加の5兆5,256億円となりました。また、連結純資産は、有価証券正味未実現損益が減少したものの、利益の積み上げ及び外貨換算調整勘定の改善により、前連結会計年度末比1,197億円増加の1兆354億円となりました。

当第3四半期連結会計期間末の連結有利子負債は、前連結会計年度末比2,916億円増加の2兆7,746億円となりました。また、当第3四半期連結会計期間末の現金及び預金等控除後の連結ネット有利子負債は、前連結会計年度末比2,696億円増加の2兆253億円となりました。この結果、当第3四半期連結会計期間末の連結ネットD/Eレシオは1.96倍となりました。

資金調達

当社及び連結子会社の資金調達に関しては、資産構成に合わせた最適資金調達を基本方針とし、銀行をはじめとした金融機関からの間接調達と社債、コマーシャル・ペーパー等の直接調達により、安定的な流動性を確保するとともに、金融費用の削減を目指しております。

また、主要な連結子会社の資金調達が当社及び国内外の金融子会社、海外現地法人からのグループファイナンスに一元化する体制の下、資金余剰のあるグループ会社の余資を、他のグループ会社の資金需要に機動的に活用し、当社グループ全体の資金効率化を推進しております。

直接調達手段として以下のプログラムを設定しております。

- ・ 国内公募普通社債発行登録枠 3,000億円
- ・ ユーロ・メディアム・タームノート・プログラム

当社、Marubeni Finance Europeの2社共同プログラム 20億米ドル

上記ユーロ・メディアム・タームノート・プログラムは、平成24年8月2日より当社、

丸紅欧州会社、Marubeni Finance Hollandの3社共同プログラムから変更いたしました。

資本市場からの調達にあたり、当社はムーディーズ・インベスターズ・サービス (Moody's)、スタンダード・アンド・プアーズ (S&P)、格付投資情報センター (R&I)、日本格付研究所 (JCR) の4社から格付けを取得しております。

当第3四半期連結累計期間におきましては、格付けの変更はなく、Moody'sによる発行体格付け (長期) がBaa2、S&Pによる長期会社格付けがBBB、R&Iによる発行体格付け (長期) がA-、JCRによる長期優先債務格付けがA+となっております。

流動性の状況

連結ベースの流動比率は、前連結会計年度末における143.8%に対し、当第3四半期連結会計期間末は145.2%となり、流動性の点で当社の財務健全性を維持しております。また、当社及び連結子会社では、主として現預金及びコミットメントラインの設定により、十分な流動性補完を確保しております。

当第3四半期連結会計期間末における現金及び預金等の残高は7,493億円となっております。

設定しているコミットメントラインは以下の通りです。

- ・ 大手邦銀を主としたシンジケート団による2,450億円 (長期)
- ・ 大手邦銀によるマルチカレンシー型550億円 (長期)
- ・ 欧米主要銀行によるドル建て515百万米ドル (短期)

上記に加えて、市場性のある有価証券等流動性の高い資産を保有しておりますので、当社及び連結子会社における資金需要、並びに一年以内に償還予定のメディアム・タームノートを含む社債等の市場性資金 (当第3四半期連結会計期間末残高603億円) に対する十分な流動性を確保しております。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	4,300,000,000
計	4,300,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年2月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	1,737,940,900	1,737,940,900	東京、名古屋、 大阪各証券取引所 (各市場第一部)	権利内容に何ら限定のない 当社における標準となる 株式 単元株式数は1,000株
計	1,737,940,900	1,737,940,900		

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成24年10月1日～ 平成24年12月31日		1,737,940,900		262,686		91,073

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成24年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成24年12月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式（自己株式等）	-	-	-
議決権制限株式（その他）	-	-	-
完全議決権株式（自己株式等）	（自己保有株式） 普通株式 1,576,000	-	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
	（相互保有株式） 普通株式 216,000	-	
完全議決権株式（その他）	普通株式（注）1 1,731,681,000	1,731,681	同上
単元未満株式	普通株式（注）2 4,467,900	-	同上
発行済株式総数	1,737,940,900	-	-
総株主の議決権	-	1,731,681	-

（注）1 「完全議決権株式（その他）」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が25,000株（議決権25個）含まれております。

2 「単元未満株式」の欄には、下記の通り1社所有の相互保有株式780株及び当社所有の自己株式204株が含まれております。

丸住製紙株式会社 780株

【自己株式等】

平成24年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 （株）	他人名義 所有株式数 （株）	所有株式数 の合計 （株）	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合（%）
丸紅株式会社 （自己保有株式）	東京都千代田区大手町 一丁目4番2号	1,576,000	-	1,576,000	0.09
丸住製紙株式会社 （相互保有株式）	愛媛県四国中央市 川之江町826番地	136,000	-	136,000	0.01
丸倉化成株式会社 （相互保有株式）	大阪府羽曳野市川向 2060 - 1	80,000	-	80,000	0.00
計	-	1,792,000	-	1,792,000	0.10

（注）株主名簿上は当社名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が1,000株（議決権1個）あります。  
なお、当該株式数は上記「発行済株式」の「完全議決権株式（その他）」に含まれております。

## 2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当第3四半期累計期間において、役員（取締役・監査役）の異動はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」（平成23年内閣府令第44号）第3条の規定による「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（以下「四半期連結財務諸表規則」という。）の附則第4条の規定により、米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準（以下「米国会計基準」という。）に準拠して作成しております。

当社は昭和49年10月にアムステルダム証券取引所、同年11月にデュッセルドルフ証券取引所及びフランクフルト証券取引所に預託証券を上場させるため、米国会計基準による連結財務諸表の作成を開始いたしました。

旧大蔵省の届出におきましては昭和53年3月13日付にて、「連結財務諸表規則取扱要領第86に基づく承認申請書」を大蔵大臣に提出し、米国会計基準による連結財務諸表提出の承認申請を行い、同年3月29日付蔵証第462号にて承認され、昭和52年度より旧証券取引法による有価証券報告書の添付書類として米国会計基準による連結財務諸表の提出を開始し現在に至っております。

なお、当社は米国証券取引委員会への上場登録は行っておりません。

また、金額の表示は、百万円未満を四捨五入して記載しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当第3四半期連結会計期間（平成24年10月1日から平成24年12月31日まで）及び当第3四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

		前連結会計年度末 (平成24年3月31日)	当第3四半期 連結会計期間末 (平成24年12月31日)
区分	注記 番号	金額(百万円)	金額(百万円)
<b>資産の部</b>			
<b>流動資産</b>			
現金及び現金同等物	10,11,12	677,312	729,954
定期預金	10,11,12	49,968	19,326
有価証券	4,10,11	2,438	96
営業債権			
受取手形		61,122	66,604
売掛金	5,12	1,009,361	1,103,917
関連会社に対する債権	5	49,687	57,386
貸倒引当金	5	7,337	7,299
たな卸資産		443,186	449,762
前渡金		151,230	110,469
繰延税金		21,642	21,648
前払費用及びその他の流動資産	12	185,284	233,431
(流動資産合計)		2,643,893	2,785,294
<b>投資及び長期債権</b>			
関連会社に対する投資及び債権	5,10,11	978,871	1,162,078
投資有価証券及びその他の投資	4,10,11	330,325	282,171
長期営業債権及び長期貸付金	5,10	106,958	116,525
貸倒引当金	5	27,877	27,115
賃貸固定資産 - 減価償却累計額 (前連結会計年度末47,614百万円、 当第3四半期連結会計期間末52,319百万円)控除後	11	218,008	236,183
(投資及び長期債権合計)		1,606,285	1,769,842
<b>有形固定資産</b>			
有形固定資産	11	1,206,460	1,289,897
減価償却累計額		557,927	596,632
(有形固定資産合計)		648,533	693,265
前払年金費用		96	68
繰延税金		39,377	43,495
のれん及び無形固定資産	11	132,696	151,683
その他の資産	12	59,007	81,989
<b>資産合計</b>	<b>9</b>	<b>5,129,887</b>	<b>5,525,636</b>

		前連結会計年度末 (平成24年3月31日)	当第3四半期 連結会計期間末 (平成24年12月31日)
区分	注記 番号	金額(百万円)	金額(百万円)
負債及び純資産の部			
流動負債			
短期借入金	10, 12	126,459	228,557
一年以内に期限の到来する長期債務	10, 12	208,429	224,087
営業債務			
支払手形		156,644	161,951
買掛金	12	869,324	873,830
関連会社に対する債務		34,778	25,230
前受金		119,662	72,302
未払法人税等		20,715	16,103
繰延税金		1,514	4,349
未払費用及びその他の流動負債	12	301,426	311,523
(流動負債合計)		1,838,951	1,917,932
長期債務	10, 12	2,268,552	2,447,881
退職給付債務		60,887	59,303
繰延税金		45,727	65,079
約定及び偶発債務	13		
純資産	7		
当社株主資本			
資本金		262,686	262,686
授権株式数			
4,300,000,000株			
発行済株式数			
前連結会計年度末		- 1,737,940,900株	
当第3四半期連結会計期間末		- 1,737,940,900株	
資本剰余金		158,237	154,609
利益剰余金		856,286	970,536
その他の包括損益累計額			
有価証券正味未実現損益	4	19,510	9,149
外貨換算調整勘定		307,642	278,663
デリバティブ正味未実現損益	12	71,286	74,311
退職給付債務調整額		64,842	63,017
自己株式		777	842
前連結会計年度末		- 1,744,243株	
当第3四半期連結会計期間末		- 1,861,330株	
(当社株主資本合計)		852,172	980,147
非支配持分		63,598	55,294
(純資産合計)		915,770	1,035,441
負債及び純資産合計		5,129,887	5,525,636

「四半期連結財務諸表に対する注記」参照

(2)【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

区分	注記 番号	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
		金額(百万円)	金額(百万円)
収益:			
商品の販売等に係る収益		3,122,481	3,490,173
サービスに係る手数料等		117,161	113,241
収益合計		3,239,642	3,603,414
売上高	9		
前第3四半期連結累計期間: 7,652,762百万円			
当第3四半期連結累計期間: 7,697,794百万円			
商品の販売等に係る原価	11,12	2,835,541	3,215,009
売上総利益	9	404,101	388,405
その他の収益・費用( ): 販売費及び一般管理費		276,594	291,444
貸倒引当金繰入額	5	1,528	1,315
受取利息	5	9,072	12,013
支払利息	12	21,991	24,155
受取配当金		18,936	17,816
有価証券評価損	4,11,12	3,758	9,148
有価証券売却損益	3,4,11 12,15	19,489	30,715
固定資産損益	11	1,750	1,084
持分法による投資損益	9,11	61,600	69,880
その他の損益 - 純額	4,11,12	3,702	10,848
その他の収益・費用( )合計		189,322	183,706
法人税等及び非支配持分帰属損益前利益		214,779	204,699
法人税等		66,929	49,949
非支配持分帰属損益前純利益		147,850	154,750
非支配持分帰属損益		6,597	2,300
当社株主に帰属する四半期純利益	9	141,253	152,450

区分	注記 番号	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
		金額	金額
基本的1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益	8	81.35円	87.81円

「四半期連結財務諸表に対する注記」参照

【第3四半期連結会計期間】

		前第3四半期連結会計期間 (自平成23年10月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成24年10月1日 至平成24年12月31日)
区分	注記 番号	金額(百万円)	金額(百万円)
収益:			
商品の販売等に係る収益		960,361	1,188,484
サービスに係る手数料等		35,733	35,774
収益合計		996,094	1,224,258
売上高	9		
前第3四半期連結会計期間: 2,502,307百万円			
当第3四半期連結会計期間: 2,617,148百万円			
商品の販売等に係る原価	11,12	873,497	1,102,557
売上総利益	9	122,597	121,701
その他の収益・費用( ): 販売費及び一般管理費		92,209	97,387
貸倒引当金繰入額	5	530	232
受取利息	5	3,485	4,256
支払利息	12	7,164	7,651
受取配当金		5,648	5,551
有価証券評価損	4,11,12	326	28
有価証券売却損益	4,11,12	9,939	11,772
固定資産損益	15		
持分法による投資損益	11	1,100	314
持分法による投資損益	9	18,381	26,679
その他の損益 - 純額	9	1,401	890
その他の収益・費用( )合計		60,275	55,836
法人税等及び非支配持分帰属損益前利益		62,322	65,865
法人税等		20,789	17,639
非支配持分帰属損益前純利益		41,533	48,226
非支配持分帰属損益		3,310	1,077
当社株主に帰属する四半期純利益	9	38,223	47,149

		前第3四半期連結会計期間 (自平成23年10月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成24年10月1日 至平成24年12月31日)
区分	注記 番号	金額	金額
基本的1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益	8	22.01円	27.16円

「四半期連結財務諸表に対する注記」参照

(3)【四半期連結包括損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

		前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
区分	注記 番号	金額(百万円)	金額(百万円)
包括損益			
非支配持分帰属損益前純利益		147,850	154,750
その他の包括損益 - 税効果考慮後	7		
有価証券正味未実現損益増減額	4,11	19,542	10,348
外貨換算調整勘定増減額	12	65,828	29,243
デリバティブ正味未実現損益増減額	11,12	20,631	2,212
退職給付債務調整額増減額		2,546	1,829
その他の包括損益計		103,455	18,512
非支配持分帰属包括損益前包括損益合計		44,395	173,262
非支配持分帰属包括損益	7	4,252	3,394
当社株主に帰属する四半期包括損益合計		40,143	169,868

「四半期連結財務諸表に対する注記」参照

【第3四半期連結会計期間】

		前第3四半期連結会計期間 (自平成23年10月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成24年10月1日 至平成24年12月31日)
区分	注記 番号	金額(百万円)	金額(百万円)
包括損益			
非支配持分帰属損益前純利益		41,533	48,226
その他の包括損益 - 税効果考慮後	11		
有価証券正味未実現損益増減額	11	7,012	10,217
外貨換算調整勘定増減額	12	54,174	33,598
デリバティブ正味未実現損益増減額	11,12	11,942	3,072
退職給付債務調整額増減額		771	359
その他の包括損益計		72,357	47,246
非支配持分帰属包括損益前包括損益合計		30,824	95,472
非支配持分帰属包括損益		813	1,173
当社株主に帰属する四半期包括損益合計		31,637	94,299

「四半期連結財務諸表に対する注記」参照

(4)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

区分	注記 番号	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
		金額(百万円)	金額(百万円)
営業活動			
非支配持分帰属損益前純利益		147,850	154,750
営業活動による純キャッシュ・フローへの調整			
減価償却費等		52,708	56,216
貸倒引当金繰入額		1,528	1,315
持分法による投資損益(受取配当金控除後)		23,085	13,035
有価証券損益		15,731	21,567
固定資産損益		1,750	1,084
繰延税金		23,987	11,586
営業活動に係る資産・負債の増減			
受取手形及び売掛金		148,835	102,027
たな卸資産		43,780	4,418
前渡金・前払費用及びその他の資産		12,717	14,157
前払年金費用		37	31
支払手形及び買掛金		27,226	3,639
前受金・未払費用及びその他の負債		11,623	96,665
未払法人税等		7,358	4,922
その他		6,908	4,670
営業活動による純キャッシュ・フロー		3,809	5,136
投資活動			
定期預金の純増減額		9,646	31,008
有価証券及びその他の投資等の売却・償還による収入		54,636	71,121
有価証券及びその他の投資等の購入による支出		45,117	35,788
関連会社に対する投資の売却による収入		4,655	2,014
関連会社に対する投資の取得による支出		106,100	102,885
有形固定資産及び賃貸固定資産の売却による収入		15,650	5,053
有形固定資産及び賃貸固定資産の購入による支出		114,098	103,564
貸付金の回収による収入		12,645	18,852
貸付金の貸付による支出		19,176	31,977
投資活動による純キャッシュ・フロー		187,259	146,166

		前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
区分	注記 番号	金額(百万円)	金額(百万円)
<b>財務活動</b>			
短期借入金の純増減額		48,589	70,922
長期借入金及び社債による調達		427,596	567,676
長期借入金及び社債の返済		322,021	393,852
現金配当		28,654	38,200
自己株式の取得及び売却		70	65
その他		3,235	13,413
財務活動による純キャッシュ・フロー		122,205	193,068
為替相場の変動の現金及び現金同等物に与える影響		13,859	10,876
現金及び現金同等物の純増減額		82,722	52,642
現金及び現金同等物の期首残高		616,003	677,312
現金及び現金同等物の四半期末残高		533,281	729,954

キャッシュ・フローに関する補足情報

		前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
区分	注記 番号	金額(百万円)	金額(百万円)
<b>キャッシュ・フローを伴わない投資活動</b>			
交換による資産の取得			
取得した資産の公正価値		6,924	-
交換に供した資産の帳簿価額		6,924	-
退職給付信託設定のための資産の拠出	4	4,036	3,716

## 四半期連結財務諸表の作成方法等について

当社の四半期連結財務諸表は、米国会計基準に準拠して作成しております。米国会計基準は、米国財務会計基準審議会の会計基準の体系化（Accounting Standards Codification<sup>TM</sup>）105-10「一般に公正妥当と認められる会計原則」により体系化されております。

本邦の四半期財務諸表に関する会計基準及び四半期連結財務諸表規則（以下「本邦会計基準」という。）に準拠して作成する場合との主要な相違の内容は以下の通りであり、金額的に重要性のある項目については、法人税等及び非支配持分帰属損益前利益（以下「連結税引前利益」という。）に対する影響額を併せて開示しております。

### （１）四半期連結財務諸表の構成

当社の四半期連結財務諸表は、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括損益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記により構成されております。

### （２）会計処理基準及び表示の方法

#### （イ）契約当事者における収益の総額表示と代理人における収益の純額表示

収益の計上額は、法的に契約当事者として取引に関与する場合においても、当社及び連結子会社が主たる義務を負う者に該当せず、一般的な在庫リスクを負わない場合等には、一般的に純額で表示しております。

#### （ロ）負債証券及び市場性のある持分証券に係る会計処理

負債証券及び市場性のある持分証券について、被投資会社の合併に伴う新旧株式の交換につき交換損益を認識しております。当該処理については、主に過年度における本邦会計基準との相違により、平成24年度以降も引き続き連結税引前利益に対し影響を及ぼすこととなります。

また、一時的でないとは判断される価値の下落が生じている負債証券については、当社及び連結子会社が当該証券を売却する意思を持っているか、現時点の信用に伴う損失部分を除く償却原価ベースまで回復する前に売却せざるを得なくなる公算が大きい場合には、公正価値まで減額し、有価証券評価損として減損を認識しております。当社及び連結子会社が当該証券を売却する意思がなく、かつ現時点の信用に伴う損失部分を除く償却原価ベースまで回復する前に売却せざるを得なくなる公算が大きい場合、一時的でないとは判断される価値の下落について、信用に伴う損失とそれ以外の損失に区分の上、信用に伴う損失は有価証券評価損として減損を認識し、それ以外の損失については、税効果考慮後の正味未実現損失を、その他の包括損益として認識しております。

#### （ハ）のれん及びその他の無形固定資産に係る会計処理

企業結合から生じるのれん、耐用年数が不確定の無形固定資産、及び関連会社に対する投資に含まれているのれんについては償却を行っておりません。本会計処理による前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間の連結税引前利益に対する影響額は、それぞれ5,353百万円（利益）及び5,316百万円（利益）であり、前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間の連結税引前利益に対する影響額は、それぞれ1,629百万円（利益）及び1,675百万円（利益）であります。

なお、企業結合から生じるのれん、耐用年数が不確定の無形固定資産については、少なくとも連結会計年度ごとに、減損処理の要否を検討しております。

#### （ニ）圧縮記帳に係る会計処理

有形固定資産の圧縮記帳については、圧縮記帳がなかったものとして処理しております。

#### （ホ）年金会計

退職一時金及び退職年金制度に係る給付義務については、年金数理計算に基づき算出された予測給付債務が制度資産の公正価値を上回る場合には退職給付債務を、下回る場合には前払年金費用をそれぞれ認識しております。また、予測給付債務に係る勤務費用及び利息費用について期間純年金費用として認識するとともに、制度資産に係る期待運用収益を期間純年金費用から控除しております。加えて、未認識の数理計算上の差異及び過去勤務債務のうち、当期の期間純年金費用として認識されなかった部分を、その他の包括損益として認識するとともに、将来の一定期間にわたって損益認識しております。本会計処理による前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間の連結税引前利益に対する影響額は、それぞれ5,452百万円（利益）及び5,270百万円（利益）であり、前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間の連結税引前利益に対する影響額は、それぞれ1,822百万円（利益）及び1,757百万円（利益）であります。

#### （ヘ）デリバティブ及びヘッジ損益に係る会計処理

本邦会計基準において、特定の場、資産又は負債に係る金利の受払条件を変換することを目的として利用されている金利スワップ等は、時価評価しないことが認められておりますが、当社はこれを時価評価のうえ公正価値の変動額を損益認識しております。また、本邦会計基準においては為替予約等に関して振当処理が認められておりますが、当社はこれを時価評価のうえ公正価値の変動額を損益認識しております。

(ト) 連結子会社の所有持分の変動に係る会計処理

連結子会社の支配の喪失を伴わない範囲の所有持分の変動については資本取引として処理し、連結子会社の支配の喪失を伴う所有持分の変動については当該変動部分について損益認識するとともに、継続保有部分についても公正価値で再測定の上、損益に含めております。本会計処理による前第3四半期連結累計期間及び前第3四半期連結会計期間の連結税引前利益に対する影響額は、それぞれ2,107百万円(利益)及び2,226百万円(利益)であります。当第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結会計期間の連結税引前利益に対する重要な影響はありません。

(チ) 営業債権債務の表示

通常取引に基づき発生した営業上の債権債務(ただし、破産更生債権等で1年以内に回収されないことが明らかなものを除く)については、本邦会計基準では流動項目として表示しますが、当社の四半期連結財務諸表及び連結財務諸表においては、その決済期日が貸借対照表日から起算し1年を超えるものを非流動項目として区分表示しております。

(リ) 鉱業権の表示

本邦会計基準では鉱業権は無形固定資産として表示しますが、当社の四半期連結財務諸表及び連結財務諸表においては、これを有形固定資産として表示しております。

(ヌ) 新株予約権に係る会計処理

旧商法に基づき発行した新株引受権付社債の手取額のうち、新株引受権に対応する価額は、発行時に資本剰余金に計上しております。

## 四半期連結財務諸表に対する注記

### 1 事業内容及び四半期連結財務諸表の基本事項

#### 事業内容

当社及び連結子会社は、国内外のネットワークを通じて、食料、繊維、資材、紙パルプ、化学品、エネルギー、金属、機械、金融、物流、情報関連、開発建設その他の広範な分野において、輸出入（外国間取引を含む）及び国内取引の他、各種サービス業務、内外事業投資や資源開発等の事業活動を多角的に展開しております。

#### 四半期連結財務諸表の基本事項

当社は本邦で設立され、その会計帳簿及び財務諸表は日本円で表示されております。この四半期連結財務諸表は本邦において作成されている四半期連結財務諸表と相違する点があります。すなわち、この四半期連結財務諸表は財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して表示するために、四半期連結財務諸表作成の手続の他、当社の会計帳簿に記載されていないいくつかの修正を加えております。主な修正項目は以下の通りであります。

- (1) 契約当事者における収益の総額表示と代理人における収益の純額表示
- (2) 負債証券及び市場性のある持分証券に係る会計処理
- (3) のれん及びその他の無形固定資産に係る会計処理
- (4) 圧縮記帳に係る会計処理
- (5) 年金会計
- (6) デリバティブ及びヘッジ損益に係る会計処理
- (7) 連結子会社の所有持分の変動に係る会計処理
- (8) 営業債権債務の表示
- (9) 鉱業権の表示
- (10) 新株予約権に係る会計処理

### 2 重要な会計方針

#### 連結

四半期連結財務諸表は、当社及び当社が直接・間接に議決権の過半数を所有する国内外の子会社、並びに当社及び子会社が主たる受益者となる変動持分事業体（以上を合わせて「当社及び連結子会社」という。）の各勘定を連結しております。

当社及び連結子会社において、重要な内部取引及び勘定は消去されております。

決算期が12月末から3月末の間にある一部の連結子会社については、決算期を当社の決算期である3月末とみなして連結しております。これらの連結子会社の第3四半期決算期（9月末あるいは9月末以降）から当社の第3四半期決算期（12月末）までの間に、四半期連結財務諸表に開示すべき重要な事項はありません。

#### 関連会社に対する投資

関連会社（当社及び連結子会社が議決権の20%以上50%以下を保有している会社及び20%未満の保有であっても重要な影響力を行使し得る会社）に対する投資額は、通常、取得原価に取得時以降の未分配利益及び未処理損失に対する持分相当額を調整した価額により計上しております。また、関連会社から受け取った配当金については、関連会社に対する投資より減額しております。関連会社に対する投資額のうち、のれん相当額については償却を行っておりません。また、一時的でない価値の下落が生じている関連会社への投資については、公正価値まで減額し、減損を認識しております。公正価値の下落が一時的かどうかについては、時価が帳簿価額を下回っている期間の長さ、下落率、投資先の業績予想等による回復可能性により総合的に判断しております。

#### 見積りの使用

四半期連結財務諸表の作成にあたっては、期末時点での資産・負債の計上、偶発資産・偶発債務の開示及び期中の収益・費用の計上を行うため、必要に応じて会計上の見積り又は仮定を用いております。この会計上の見積り又は仮定は、その性質上不確定であり、実際の結果と異なる可能性があります。四半期連結財務諸表に重要な影響を与える会計上の見積り又は仮定は、貸倒引当金、有価証券の評価、長期性資産の減損、のれん及びその他の無形固定資産の減損、繰延税金資産の回収可能性、退職給付債務、不確実な税務ポジション等であります。

## 外貨換算

海外連結子会社及び関連会社の財務諸表の換算については、資産及び負債は期末日の為替レートで円貨に換算し、収益及び費用は対応する会計期間の平均為替レートで円貨に換算しております。この結果生じる換算差額は、外貨換算調整勘定としてその他の包括損益累計額に含めて表示しております。外貨建の金銭債権債務は、期末日の為替レートにて円貨に換算しており、この結果生じる換算差額は損益認識しております。

## 現金同等物

現金同等物には、取得時の満期日が3ヶ月以内の定期預金、譲渡性預金及び売戻し条件付きの有価証券を含めております。

## 負債証券及び市場性のある持分証券

当社及び連結子会社は、負債証券及び市場性のある持分証券の取得時に、それらを売買目的有価証券、満期保有目的有価証券、又は売却可能有価証券に分類しております。

負債証券については、当社及び連結子会社が満期まで保有する積極的な意思及び能力を持つ場合に満期保有目的有価証券として分類した上で、償却原価法によって満期日までのプレミアム及びディスカウントの償却を修正しております。当該償却額及び満期保有目的有価証券に係る利息は受取利息に含めております。また、一時的でない判断される価値の下落が生じている満期保有目的有価証券は、当社及び連結子会社が当該証券を売却する意思を持っているか、現時点の信用に伴う損失部分を除く償却原価ベースまで回復する前に売却せざるを得なくなる公算が大きい場合には、公正価値まで減額し、有価証券評価損として減損を認識しております。当社及び連結子会社が当該証券を売却する意思がなく、かつ現時点の信用に伴う損失部分を除く償却原価ベースまで回復する前に売却せざるを得なくなる公算が大きい場合、一時的でない判断される価値の下落について、信用に伴う損失とそれ以外の損失に区分の上、信用に伴う損失は有価証券評価損として減損を認識し、それ以外の損失については、税効果考慮後の正味未実現損失を、その他の包括損益として認識しております。

売買目的有価証券は、短期間の市場価格の動向によって売却することを目的として保有されており、その公正価値により計上しております。売却目的有価証券に係る実現損益は平均原価に基づいて算出し、有価証券売却損益に含めております。

売買目的有価証券に分類されない市場性のある持分証券、及び売買目的有価証券又は満期保有目的有価証券に分類されない負債証券は売却可能有価証券に分類し、公正価値で評価した後、税効果考慮後の正味未実現損益を、その他の包括損益累計額に含めて表示しております。この区分における負債証券の原価は満期日までのプレミアム及びディスカウントの償却を加味しており、当該償却額は受取利息に含めております。売却可能有価証券に係る利息及び配当はそれぞれ受取利息及び受取配当金に含めております。売却可能有価証券の実現損益は平均原価に基づいて算出し、有価証券売却損益に含めております。また、一時的でない判断される価値の下落が生じている売却可能有価証券のうち、負債証券については満期保有目的有価証券と同様に処理し、その他の証券については公正価値まで減額し、減損を認識しております。

公正価値の下落が一時的かどうかについては、時価が帳簿価額を下回っている期間の長さ、下落率等により総合的に判断しております。

## 市場性のない持分証券

市場性のない持分証券については、取得原価で計上しております。また、一時的でない判断される価値の下落が生じている市場性のない持分証券については、公正価値まで減額し、減損を認識しております。

公正価値の下落が一時的かどうかについては、純資産額等による実質価値の下落率等により総合的に判断しております。

## たな卸資産

主な商品、製品及び販売用不動産等のたな卸資産は、取得原価（主に個別法又は移動平均法）と時価（通常は再調達原価）とのいずれか低い価額で計上しております。

## 貸倒引当金

当社及び連結子会社は、金融債権の信用リスクを評価するにあたって、金融債権の債務者及び地域等が有する潜在的なリスクに基づき分類しております。金融債権に対する貸倒引当金は、当該リスクの分類に応じて、過去の経験等を考慮に入れて算定される貸倒実績率、又は回収可能額の見積りに基づき計上しております。減損の対象となる貸付金等に対する貸倒引当金は、当該金融債権の予想キャッシュ・フローを当初の実効利率で割り引いた現在価値、又は観測可能な市場価格あるいはその担保の公正価値に基づき計上しております。また、法的整理等が実施された金融債権については、直接減額しております。

## リース

当社及び連結子会社は、直接金融リース、販売型リース及びオペレーティング・リースによる固定資産の賃貸事業を行っております。直接金融リース及び販売型リースでは、リース期間にわたり純投資額に対して一定の利率にて未稼得収益を取り崩すことにより収益として認識しております。また、販売型リースでの販売による収益は、リース開始時に認識しております。オペレーティング・リースに係る収益は、リース期間にわたり均等に認識しております。

また、当社及び連結子会社は、キャピタル・リース及びオペレーティング・リースにより固定資産を賃借しております。キャピタル・リースでは、リース期間にわたりキャピタル・リース債務に対して一定の利率にて支払利息を認識しております。リース資産の減価償却費は、リース期間にわたり定額法又は定率法により費用として認識しております。オペレーティング・リースに係る費用は、リース期間にわたり均等に認識しております。

## 減価償却

鉱業権を除く有形固定資産及び賃貸固定資産の減価償却は、当該資産の見積耐用年数（建物及び構築物は概ね2年～60年、機械及び装置は概ね2年～45年）に基づき定額法又は定率法で算出しております。鉱業権の減価償却は、9年～30年の見積耐用年数に基づき定額法又は生産高比例法で算出しております。

耐用年数を有する無形固定資産（償却性無形固定資産）の減価償却は、見積耐用年数に基づき定額法で算出しております。

## 長期性資産（賃貸固定資産、有形固定資産及び無形固定資産）の減損

当社及び連結子会社が保有・使用中の長期性資産、または売却以外で処分予定の長期性資産のうち、賃貸固定資産、有形固定資産及び償却性無形固定資産については、帳簿価額が回収できない可能性を示す事象や状況の変化が生じた場合、資産の帳簿価額と予想割引前キャッシュ・フローの総額を比較し、帳簿価額が回収できないと判定された場合には公正価値まで減額し、減損を認識しております。また、売却による処分予定の長期性資産については、帳簿価額と公正価値（売却費用差引後）とのいずれか低い価額で計上しております。

## のれん及びその他の無形固定資産

のれん及び耐用年数が不確定の無形固定資産については償却を行わず、少なくとも連結会計年度ごとに減損処理の要否を検討しております。さらに、二段階評価に基づいて減損テストを実施しております。減損テストの第一段階は、報告単位を基礎とした減損の兆候の検討であり、第二段階は、第一段階で発見された減損の兆候に対する減損金額の測定であります。

## 企業結合

当社及び連結子会社は、すべての企業結合につき取得法により会計処理しております。また、企業結合によって取得した無形固定資産をのれんとその他の無形固定資産に分離して認識しております。

## 資産の除去債務

長期性資産の除去に関する債務については発生時の公正価値で負債として認識する一方、同額を資産化し、時間の経過に伴い当該負債を毎期現在価値まで増額するとともに、資産化された金額を関連する長期性資産の耐用年数にわたって償却しております。

## 石油・ガスの探鉱活動

石油・ガスの探鉱及び開発費用は、成功成果法に基づき会計処理しております。利権鉱区取得費用、試掘井及び開発井の掘削・建設費用、及び関連資産設備は資産として認識し、生産高比例法により償却しております。試掘井に係る費用は事業性がないことが判明した時点で、地質調査費用等のその他の探鉱費用は発生時点で、それぞれ費用化しております。確認利権鉱区は、企業環境の変化や経済事象の発生により帳簿価額が回収できない可能性を示す事象や状況の変化が生じた場合に減損処理の要否を検討し、帳簿価額が回収できないと判定された場合には公正価値まで減額し、減損を認識しております。未確認利権鉱区については、少なくとも連結会計年度ごとに減損処理の要否を検討し、帳簿価額が回収できないと判定された場合には公正価値まで減額し、減損を認識しております。

## 鉱物の採掘活動

鉱物の採掘費用は鉱物の採掘活動の商業採算性が確認されるまで発生時に費用認識しております。商業採算性が確認された後に発生した採掘活動に関する費用については、開発費用とともに資産計上し、確認鉱量及び推定鉱量に基づき定額法又は生産高比例法により償却しております。生産期に発生した剥土費用は発生した期間における変動生産費として、当該鉱物資産のたな卸資産原価として計上しております。

## 退職給付及び退職年金制度

当社及び一部の連結子会社は、大部分の従業員を対象として確定給付型企業年金制度及び退職一時金制度を採用しており、予測給付債務及び退職年金費用を年金数理計算に基づき算定しております。

## 収益の認識基準及び売上高

当社及び連結子会社の関与する取引には、仕切取引、代行取引等種々の形態があります。代行取引においては買主と売主との間で直接取引代金の決済が行われ、当社及び連結子会社は、買主と売主のいずれか一方、もしくは両方から手数料を受け取っております。

当社及び連結子会社は、商品の販売、サービスの提供及び商取引の仲介等により利益を得ております。法的に契約当事者として取引に関与する場合においても、当社及び連結子会社が主たる義務を負う者に該当せず、一般的な在庫リスクを負わない場合等には、一般的に純額で表示しております。なお、契約形態や条件の変更、並びに取引実体の変化に応じて、表示方法の見直しを行っております。

四半期連結損益計算書における売上高については、日本の投資家の便宜を考慮して、日本の会計慣行に従い自主的に表示しており、米国会計基準で求められている表示ではありません。また、取引形態の如何にかかわらず当社及び連結子会社の関与する全ての取引を含んで表示しております。

商品の販売等に係る収益又はサービスに係る手数料等は、実現時又は実現が可能となった時点で認識しております。実現時又は実現が可能となった時点とは、以下のような、説得力のある契約等が存在すること、商品の引渡し又は役務提供が完了していること、販売価格が確定していること、代金回収可能性が合理的に確保されていることの要件が満たされた時点と考えられます。

商品の販売等：仕切取引においては、当社及び連結子会社が出荷を手配する場合は出荷時、船荷証券・倉庫証券・貨物引換証・荷渡指示書を買主に引渡す場合は、その交付時等契約上の受渡条件が履行された時点、その他検収が完了し、履行すべき義務がほぼなくなり、顧客の受取が確実となった時点をもって収益を認識しております。

サービス等：契約に定められたサービス等が顧客に提供された時点をもって手数料を認識しております。代行取引においては、契約に定められた役務提供完了時に手数料を認識しております。

請負工事契約：工事契約に基づいて工事収益総額、工事原価総額及び工事進捗度を信頼のける方法で測定できる場合には工事進行基準により、それ以外の場合には工事完成基準により、それぞれ収益を認識しております。工事完成までの進捗度の測定は通常、原価対原価法（原価比例法）で行い、損失が見込まれる契約については損失が見込まれた時点で損失を認識しております。

また、出荷に係る荷役費及び運送費は、商品の販売等に係る原価に含めております。

## 消費税等

消費税等の処理は、税抜方式によっております。

## デリバティブ及びヘッジ損益

当社及び連結子会社は、全てのデリバティブを公正価値により、資産又は負債として認識しております。デリバティブの公正価値の変動についての会計処理は、デリバティブがヘッジ目的として適格か否か、また、保有目的とヘッジ指定により決定され、ヘッジ目的以外のデリバティブの公正価値の変動額を損益認識しております。ヘッジ目的のデリバティブについては、その保有目的に応じて、公正価値ヘッジ、キャッシュ・フローヘッジ、在外事業体に対する純投資のヘッジのいずれかに指定しております。

ヘッジ対象の公正価値の変動リスクをヘッジする目的で保有するデリバティブは、公正価値ヘッジとして、公正価値の変動額を損益認識し、ヘッジ対象資産、負債、確定契約の公正価値の変動額と相殺されます。当社及び連結子会社は、主に商品や商品購入の確定契約における公正価値の変動リスクや、固定利付資産・負債の金利変動リスクをヘッジするために、デリバティブ取引を行っております。

ヘッジ対象のキャッシュ・フローの変動リスクをヘッジする目的で保有するデリバティブは、キャッシュ・フローヘッジとして、ヘッジ対象の損益が認識されるまで、公正価値の変動額をその他の包括損益累計額に含めて表示しております。デリバティブの公正価値の変動額のうち、ヘッジ効果のない部分は損益認識しております。当社及び連結子会社は、商品の予定仕入、売上等における価格変動や為替の変動に伴う将来のキャッシュ・フローの変動リスクや、変動利付資産・負債の金利変動リスクをヘッジするために、デリバティブ取引を行っております。

また、在外事業体に対する純投資の為替変動リスクをヘッジする目的で保有するデリバティブ及びデリバティブ以外のヘッジ手段は、在外事業体に対する純投資のヘッジとして、公正価値の変動額及び為替変動額を、ヘッジ効果が認められる範囲内で外貨換算調整勘定の一部として、その他の包括損益累計額に含めて表示しております。デリバティブ

ブ及びデリバティブ以外のヘッジ手段に係る公正価値の変動額及び為替変動額のうち、ヘッジ効果のない部分及びヘッジ有効性評価の対象外の部分については損益認識し、その他の損益 - 純額に含めております。

#### 特定契約に関連した金額の相殺

当社及び連結子会社は、マスターネットティング契約の下で締結されたデリバティブ取引の公正価値と、そのデリバティブ取引の契約相手に生じる現金担保を回収する権利（債権）もしくは現金担保を返済する義務（債務）として認識する公正価値とを相殺しております。

#### 公正価値の測定

当社及び連結子会社は、特定の資産及び負債を公正価値で測定しております。公正価値の測定のために使われるインプットは、市場における観察可能性に応じて3つのレベルに区分されております。

#### 保証

当社及び連結子会社は、保証の履行義務を保証開始時に公正価値により負債として認識しております。

#### 法人税等

税金費用については、当第3四半期連結累計期間を含む連結会計年度の連結税引前利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、当第3四半期連結累計期間の連結税引前利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。当該見積実効税率に基づく税金費用の計算には税務上の繰越欠損金、税額控除等の見込みを反映させておりますが、異常要因による又は非経常的な事象に関する損益等は反映させておりません。なお、これらの損益に関する税金費用については、当該見積実効税率に基づく税金費用とは別に、発生した期間にて計上しております。

法定実効税率と四半期連結損益計算書上の法人税等の実効税率との差異の主要な原因は、連結子会社の事業に係る税効果、永久差異による影響、海外連結子会社における税率の差異による影響、持分法による投資損益及び連結子会社の利益剰余金に係る税効果であります。

また、法人税等に係る利息及び課徴金は、その他の損益 - 純額に含めております。

#### 非支配持分に係る会計処理

当社及び連結子会社は、連結子会社の支配の喪失を伴わない所有持分の変動については資本取引として会計処理し、連結子会社の支配の喪失を伴う所有持分の変動については当該変動部分について損益認識するとともに、継続保有持分についても公正価値で再測定の上、有価証券売却損益に含めております。

#### 組替

当第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結会計期間の表示方式に合わせ、前第3四半期連結累計期間及び前第3四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表、並びに前連結会計年度末の連結財務諸表を一部組替表示しております。

## 3 企業結合

前第3四半期連結累計期間に生じた主要な企業結合は以下の通りです。

平成23年1月11日に、当社グループ及びパートナーであるAbu Dhabi National Energy Company PJSC（以下、TAQA社）がそれぞれ50%保有するカリブ地域2ヶ国における電力事業持株会社Marubeni TAQA Caribbean, Ltd（以下、MTC社）の議決権のうち、TAQA社が所有する50%を取得する契約を締結し、平成23年1月12日に合計16,672百万円（200百万米ドル）の払込が完了いたしました。なお、MTC社は当該追加買収によりMaruEnergy Caribbean, Ltd（以下、MCL社）に名称を変更しております。

MCL社は、ジャマイカで垂直統合型の電力会社の過半数持分を所有するほか、トリニダード・トバゴにおける卸発電業者（IPP）の持分を保有する持株会社で、持分発電容量の合計は、103万キロワットとなります。MCL社が保有する事業は以下の通りです。

- ・ジャマイカの独占電力会社Jamaica Public Service Company Limited（以下、JPS社）の80.0%
- ・トリニダード・トバゴに電力供給するIPPである  
The Power Generation Company of Trinidad and Tobago Limitedの39.0%

当社グループは、海外電力事業を戦略分野に掲げており、新規案件の開発や既設案件の買収等による優良資産の積み増しを図る一方、保有発電資産の一部売却による資産入替え等により、海外発電資産ポートフォリオの基盤を強化しております。

MCL社の業績は、当該株式取得以降、当社の連結子会社として連結財務諸表に合算しております。当該株式の取得時における資産及び負債の公正価値は次の通りです。

（百万円）

流動資産	34,532
固定資産	85,858
取得資産 計	120,390
流動負債	16,392
固定負債	65,413
引受負債 計	81,805
取得株主資本 計	32,596
非支配株主持分	5,989
取得純資産 計	38,585

当該追加取得以前に当社グループが保有していたMTC社株式について、追加取得日における公正価値への再測定を実施し、2,583百万円（利益）を有価証券売却損益に含めて計上しております。既保有持分の再測定にあたっては、当該株式の追加買収価額や、投資先から生み出される将来予想キャッシュ・フロー等を総合的に勘案して算出した公正価値を用いております。

当該企業結合に係る取得関連費用に重要性はありません。

当該企業結合に係るプロフォーマ損益情報は、連結財務諸表に対する影響額に重要性がないため開示しておりません。

なお、MCL社が保有する事業のうち、JPS社の40.0%の持分を前第3四半期連結会計期間において売却いたしました。これにより、JPS社はMCL社が40.0%出資する関連会社となりました。

当第3四半期連結累計期間に生じた企業結合に重要性はありません。

4 負債証券及び市場性のある持分証券

前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末現在における売却可能有価証券は次の通りであります。  
なお、満期保有目的有価証券はありません。

前連結会計年度末

項目	売却可能有価証券			
	原価 (百万円)	未実現利益 (百万円)	未実現損失 (百万円)	公正価値 (百万円)
流動資産分				
負債証券	-	-	-	-
合計	-	-	-	-
投資分				
負債証券	23,734	480	122	24,092
持分証券	119,524	34,525	6,821	147,228
合計	143,258	35,005	6,943	171,320

上記負債証券の内訳は、主に社債であります。

当第3四半期連結会計期間末

項目	売却可能有価証券			
	原価 (百万円)	未実現利益 (百万円)	未実現損失 (百万円)	公正価値 (百万円)
流動資産分				
負債証券	3	-	-	3
合計	3	-	-	3
投資分				
負債証券	17,806	138	80	17,864
持分証券	97,835	16,075	4,873	109,037
合計	115,641	16,213	4,953	126,901

上記負債証券の内訳は、主に社債であります。

前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末現在における売却可能有価証券の未実現損失及び当該投資の公正価値に関し、未実現損失の状態が継続している期間別の内訳は次の通りであります。

## 前連結会計年度末

項目	1年未満		1年以上	
	公正価値 (百万円)	未実現損失 (百万円)	公正価値 (百万円)	未実現損失 (百万円)
売却可能有価証券				
負債証券	1,367	122	-	-
持分証券	35,570	6,821	-	-
合計	36,937	6,943	-	-

## 当第3四半期連結会計期間末

項目	1年未満		1年以上	
	公正価値 (百万円)	未実現損失 (百万円)	公正価値 (百万円)	未実現損失 (百万円)
売却可能有価証券				
負債証券	1,394	80	-	-
持分証券	40,344	4,873	-	-
合計	41,738	4,953	-	-

公正価値が原価に対して下落している売却可能有価証券のうち主なものは市場性のある株式であります。当該株式の業種は当社及び連結子会社の取引先を中心にして多岐にわたっておりますが、公正価値が下落した主な理由は株式市場の一時的な下落に起因するもので、下落期間は12ヶ月未満となっております。下落率と下落期間に関して投資先の将来見込みを判断した結果、当社及び連結子会社は当該公正価値が将来回復するのに十分な合理的期間にわたり株式の保有を継続する予定であることから、これらの株式については一時的でない公正価値の下落にあたらぬものと考えており、減損は認識しておりません。

上記有価証券の他、前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末現在において、それぞれ2,438百万円及び93百万円の売買目的有価証券を保有しております。また、前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間に売買目的有価証券に係る評価損益をそれぞれ18百万円（損失）及び77百万円（利益）計上しております。前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間において売買目的有価証券に係る評価損益をそれぞれ13百万円（損失）及び7百万円（利益）計上しております。

前第3四半期連結累計期間の売却可能有価証券の売却収入は26,352百万円であり、また実現利益の総額は7,181百万円、実現損失の総額は55百万円であります。当第3四半期連結累計期間の売却可能有価証券の売却収入は47,203百万円であり、実現利益の総額は16,590百万円、また実現損失の総額は1百万円であります。

前第3四半期連結会計期間の売却可能有価証券の売却収入は9,752百万円であり、また実現利益の総額は3,403百万円、実現損失の総額は55百万円であります。当第3四半期連結会計期間の売却可能有価証券の売却収入は18,229百万円であり、実現利益の総額は5,114百万円、また実現損失はありません。

前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間において、退職給付信託に対し、売却可能有価証券の一部を抛出してあります。この有価証券の抛出時の公正価値はそれぞれ4,036百万円及び3,716百万円、設定益はそれぞれ3,007百万円及び2,754百万円であり、その他損益 - 純額に計上しております。

前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間において、退職給付信託に対し、売却可能有価証券の抛出は実行しておりません。

前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間において、市場価格の下落が一時的でないと判断した有価証券についてそれぞれ3,682百万円及び8,746百万円の評価損を計上しております。前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間において、市場価格の下落が一時的でないと判断した有価証券について281百万円及び24百万円の評価損を計上しております。

前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末現在において、契約上の満期別の負債証券及び市場性のある持分証券の原価及び公正価値は次の通りであります。なお、証券発行者がペナルティなしに繰上げ償還できる権利を持っているため、実際の満期は、契約上の満期と異なることがあります。

前連結会計年度末

項目	売却可能有価証券	
	原価 (百万円)	公正価値 (百万円)
負債証券		
1年以内	-	-
1年超5年以内	18,021	18,403
5年超10年以内	224	232
10年超	5,489	5,457
負債証券合計	23,734	24,092
持分証券	119,524	147,228
合計	143,258	171,320

当第3四半期連結会計期間末

項目	売却可能有価証券	
	原価 (百万円)	公正価値 (百万円)
負債証券		
1年以内	3	3
1年超5年以内	12,081	12,140
5年超10年以内	236	247
10年超	5,489	5,477
負債証券合計	17,809	17,867
持分証券	97,835	109,037
合計	115,644	126,904

## 5 金融債権及び貸倒引当金

当社及び連結子会社は、金融債権を債務者の信用リスクに応じて、一般債権、貸倒懸念債権及び破綻債権に区分しております。一般債権は、経営状態に問題が生じていない債務者に対する金融債権であります。貸倒懸念債権は、債務の弁済に問題が生じているか又は生じる可能性の高い債務者に対する金融債権であります。破綻債権は、経営破綻又は実質的に経営破綻の状態にある債務者に対する金融債権であります。これらに対する貸倒引当金は、一般債権については集合的に、貸倒懸念債権及び破綻債権については個別に回収可能額を見積った上で計上しております。これらの区分については常時モニタリングを行い、債務者の信用リスクに変化が生じた場合は都度見直しを行っております。

前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末現在における、上記区分に基づく金融債権の投資残高及び関連する貸倒引当金の残高は次の通りであります。

## 前連結会計年度末

	金融債権の 投資残高 (百万円)	関連する 貸倒引当金残高 (百万円)
一般債権	145,171	1,066
貸倒懸念債権	8,330	7,691
破綻債権	20,970	18,892
合計	174,471	27,649

## 当第3四半期連結会計期間末

	金融債権の 投資残高 (百万円)	関連する 貸倒引当金残高 (百万円)
一般債権	180,320	893
貸倒懸念債権	7,358	6,912
破綻債権	20,896	18,609
合計	208,574	26,414

前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間、前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間における、金融債権に関連する貸倒引当金の増減は次の通りであります。

項目	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間
	金額(百万円)	金額(百万円)
期首残高	39,117	27,649
当期繰入額	758	365
目的使用額	10,008	1,411
その他	1,147	189
期末残高	28,720	26,414

項目	前第3四半期 連結会計期間	当第3四半期 連結会計期間
	金額(百万円)	金額(百万円)
期首残高	38,404	26,174
当期繰入額	532	106
目的使用額	9,651	19
その他	565	153
期末残高	28,720	26,414

金融債権の金利を不計上とする基準は、決済期日から180日を超えたものとしております。また、相手先とのリスクジュールの合意及び契約の締結がなされ、かつ信頼性の高いものについて金利を再計上しております。当社及び連結子会社は債権管理方針として、決済期日から90日を超えた金融債権については、期日超過債権として管理・牽制を強化しております。前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末現在における、決済期日から90日を超えた金融債権の投資残高は、それぞれ27,518百万円及び27,723百万円であります。なお、当該金融債権のうち、未収金利を計上しているものに重要性はありません。

貸付金等は、貸倒懸念債権及び破綻債権を評価対象として、債権者が契約上の条件に従ってその全額を回収することができない可能性が高い場合、減損していると評価しております。前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末現在における、減損の認識されている貸付金等の投資残高はそれぞれ29,300百万円及び28,254百万円、これに対して設定した貸倒引当金はそれぞれ26,583百万円及び25,521百万円であり、投資残高と貸倒引当金との差額については担保等による回収が可能であると判断しております。前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間における、減損の認識されている貸付金等の平均投資残高はそれぞれ34,916百万円及び28,777百万円であります。当該貸付金等の投資残高と未払元本残高との差異に重要性はありません。これらの貸付金等は、主として未収金利を計上しておらず、これらに係る受取利息は主に入金時に収益計上しております。前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間に認識された当該受取利息は、それぞれ37百万円及び12百万円であり、前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間に認識された当該受取利息は、それぞれ5百万円及び1百万円であります。

## 6 期間純年金費用

前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間、前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間の当社及び一部の連結子会社の退職一時金制度及び退職年金制度に係る期間純年金費用の構成は、次の通りであります。

項目	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間
	金額(百万円)	金額(百万円)
勤務費用	4,901	5,163
利息費用	4,682	4,292
制度資産の期待運用収益	4,928	4,393
過去勤務債務の償却費用	769	1,186
数理計算上の差異の償却費用	4,171	5,166
従業員拠出額	211	359
期間純年金費用	7,846	8,683

項目	前第3四半期 連結会計期間	当第3四半期 連結会計期間
	金額(百万円)	金額(百万円)
勤務費用	1,622	1,673
利息費用	1,508	1,418
制度資産の期待運用収益	1,461	1,456
過去勤務債務の償却費用	260	395
数理計算上の差異の償却費用	1,373	1,826
従業員拠出額	70	118
期間純年金費用	2,712	2,948

平成24年度における制度資産への拠出予定金額については、前連結会計年度末においては約3,100百万円としておりましたが、退職給付信託への資産の拠出に伴い、当第3四半期連結会計期間末現在においては約7,400百万円と見込んでおります。

## 7 純資産及び包括損益

前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間における純資産の変動及び包括損益の内訳は、次の通りであります。

## 前第3四半期連結累計期間

	当社株主資本 (百万円)	非支配持分 (百万円)	純資産合計 (百万円)
期首残高	773,592	58,138	831,730
当社株主に対する支払配当	28,654		28,654
非支配持分に対する支払配当		2,410	2,410
資本取引及びその他	126	2,100	2,226
包括損益：			
四半期純利益	141,253	6,597	147,850
その他の包括損益 - 税効果考慮後			
有価証券正味未実現損益増減額	19,531	11	19,542
外貨換算調整勘定増減額	64,385	1,443	65,828
デリバティブ正味未実現損益増減額	19,709	922	20,631
退職給付債務調整額増減額	2,515	31	2,546
四半期包括損益	40,143	4,252	44,395
期末残高	785,207	62,080	847,287

## 当第3四半期連結累計期間

	当社株主資本 (百万円)	非支配持分 (百万円)	純資産合計 (百万円)
期首残高	852,172	63,598	915,770
当社株主に対する支払配当	38,200		38,200
非支配持分に対する支払配当		8,936	8,936
資本取引及びその他	3,693	2,762	6,455
包括損益：			
四半期純利益	152,450	2,300	154,750
その他の包括損益 - 税効果考慮後			
有価証券正味未実現損益増減額	10,361	13	10,348
外貨換算調整勘定増減額	28,979	264	29,243
デリバティブ正味未実現損益増減額	3,025	813	2,212
退職給付債務調整額増減額	1,825	4	1,829
四半期包括損益	169,868	3,394	173,262
期末残高	980,147	55,294	1,035,441

8 1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益

基本的1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益の計算は期中における加重平均発行済普通株式数に基づいてお  
ります。

基本的1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益の計算は次の通りであります。

項目	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間
分子項目		
基本的1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益の分子項目 - 当社株主に帰属する四半期純利益（百万円）	141,253	152,450
分母項目		
基本的1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益の分母項目 - 加重平均発行済株式数（自己株式控除後）（株）	1,736,355,618	1,736,165,995

基本的1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益（円）	81.35	87.81
----------------------------	-------	-------

項目	前第3四半期 連結会計期間	当第3四半期 連結会計期間
分子項目		
基本的1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益の分子項目 - 当社株主に帰属する四半期純利益（百万円）	38,223	47,149
分母項目		
基本的1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益の分母項目 - 加重平均発行済株式数（自己株式控除後）（株）	1,736,307,525	1,736,127,158

基本的1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益（円）	22.01	27.16
----------------------------	-------	-------

潜在株式調整後1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しており  
ません。

9 セグメント情報

【オペレーティング・セグメント情報】

当社及び連結子会社は、業績評価及び資源配分の意思決定のためのセグメント（オペレーティング・セグメント）として、商品、サービス及び地域の特性に応じて区分した商品と地域による複合型セグメントを採用しております。それぞれのセグメントは、本社においては商品別の営業部門によって管理運営されております。また、海外の支店・現地法人は所轄地域の特性に応じて営業活動を行っており、独立した経営単位であります。各セグメントは、種々の産業に関連して、国内及び海外において、原材料、生産財を含む広範囲な工業製品、消費財の購入、販売、市場開拓等を行っており、これらの営業活動は、金融、保険、その他の役務提供を伴っております。当社及び連結子会社はこれらの事業を、オペレーティング・セグメントとして10の商品別セグメントと海外支店・現地法人に分類しております。

前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間、前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間のオペレーティング・セグメント情報は次の通りであります。

前第3四半期連結累計期間

	食料 (百万円)	ライフ スタイル (百万円)	紙パルプ (百万円)	化学品 (百万円)	エネルギー (百万円)	金属 (百万円)	輸送機 (百万円)
売上高							
対外部売上高	1,477,182	298,008	381,143	654,269	2,108,976	667,718	538,830
セグメント間内部売上高	38,678	11,945	14,632	78,568	14,166	36,017	28,667
合計	1,515,860	309,953	395,775	732,837	2,123,142	703,735	567,497
売上総利益	81,345	23,265	23,402	19,412	46,210	22,811	32,040
持分法による投資損益	1,212	372	910	4,001	232	29,726	6,205
当社株主に帰属する 四半期純利益又は純損失( )	14,947	4,200	4,207	6,029	34,314	33,367	10,854
セグメントに対応する資産 (前連結会計年度末)	688,810	146,404	357,183	210,703	717,212	579,986	361,133

	電力・ インフラ (百万円)	プラント・ 産業機械 (百万円)	金融・物流・ 情報 (百万円)	海外支店・ 現地法人 (百万円)	全社及び 消去等 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
対外部売上高	280,668	259,210	125,869	808,817	52,072	7,652,762
セグメント間内部売上高	251	50,177	7,401	619,171	899,673	
合計	280,919	309,387	133,270	1,427,988	847,601	7,652,762
売上総利益	27,832	17,126	30,700	74,562	5,396	404,101
持分法による投資損益	16,714	2,077	785	543	393	61,600
当社株主に帰属する 四半期純利益又は純損失( )	18,560	2,359	2,580	12,441	2,605	141,253
セグメントに対応する資産 (前連結会計年度末)	535,419	270,137	182,245	555,857	524,798	5,129,887

当第3四半期連結累計期間

	食料 (百万円)	ライフ スタイル (百万円)	紙パルプ (百万円)	化学品 (百万円)	エネルギー (百万円)	金属 (百万円)	輸送機 (百万円)
売上高							
対外部売上高	1,640,599	284,477	355,314	649,545	2,357,228	544,858	405,579
セグメント間内部売上高	33,426	10,253	13,823	70,899	12,370	47,030	42,186
合計	1,674,025	294,730	369,137	720,444	2,369,598	591,888	447,765
売上総利益	74,710	23,356	20,800	20,334	41,936	14,860	35,169
持分法による投資損益	43	265	10	1,393	553	29,362	10,230
当社株主に帰属する 四半期純利益又は純損失( )	3,907	4,942	106	5,683	31,029	39,828	18,483
セグメントに対応する資産	710,477	144,654	354,097	240,197	767,062	716,472	416,711

	電力・ インフラ (百万円)	プラント・ 産業機械 (百万円)	金融・物流・ 情報 (百万円)	海外支店・ 現地法人 (百万円)	全社及び 消去等 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
対外部売上高	263,375	204,442	138,280	797,294	56,803	7,697,794
セグメント間内部売上高	32	14,339	12,171	754,398	1,010,927	
合計	263,407	218,781	150,451	1,551,692	954,124	7,697,794
売上総利益	17,124	18,735	32,087	81,406	7,888	388,405
持分法による投資損益	21,420	1,786	3,638	691	509	69,880
当社株主に帰属する 四半期純利益又は純損失( )	20,269	4,538	6,856	13,672	3,349	152,450
セグメントに対応する資産	570,794	280,540	185,820	509,934	628,878	5,525,636

前第3四半期連結会計期間

	食料 (百万円)	ライフ スタイル (百万円)	紙パルプ (百万円)	化学品 (百万円)	エネルギー (百万円)	金属 (百万円)	輸送機 (百万円)
売上高							
対外部売上高	459,378	103,529	128,393	208,425	690,761	224,374	214,510
セグメント間内部売上高	6,972	3,718	3,346	21,762	3,954	10,644	12,185
合計	466,350	107,247	131,739	230,187	694,715	235,018	226,695
売上総利益	26,779	8,127	6,326	4,819	10,847	7,661	11,802
持分法による投資損益	304	181	615	1,287	143	8,162	2,347
当社株主に帰属する 四半期純利益又は純損失( )	6,170	1,733	263	912	8,786	9,607	5,188
セグメントに対応する資産 (前連結会計年度末)	688,810	146,404	357,183	210,703	717,212	579,986	361,133

	電力・ インフラ (百万円)	プラント・ 産業機械 (百万円)	金融・物流・ 情報 (百万円)	海外支店・ 現地法人 (百万円)	全社及び 消去等 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
対外部売上高	87,573	69,102	42,258	259,131	14,873	2,502,307
セグメント間内部売上高	120	14,744	2,799	166,023	246,267	
合計	87,693	83,846	45,057	425,154	231,394	2,502,307
売上総利益	7,669	4,928	10,587	20,638	2,414	122,597
持分法による投資損益	5,086	705	439	249	379	18,381
当社株主に帰属する 四半期純利益又は純損失( )	6,431	564	313	2,520	3,738	38,223
セグメントに対応する資産 (前連結会計年度末)	535,419	270,137	182,245	555,857	524,798	5,129,887

当第3四半期連結会計期間

	食料 (百万円)	ライフ スタイル (百万円)	紙パルプ (百万円)	化学品 (百万円)	エネルギー (百万円)	金属 (百万円)	輸送機 (百万円)
売上高							
対外部売上高	590,127	100,058	120,002	238,771	802,475	182,973	130,850
セグメント間内部売上高	13,487	2,629	5,021	21,539	4,938	18,639	11,539
合計	603,614	102,687	125,023	260,310	807,413	201,612	142,389
売上総利益	26,507	7,854	6,265	6,726	12,234	4,413	13,374
持分法による投資損益	1,170	75	45	399	521	10,879	3,260
当社株主に帰属する 四半期純利益又は純損失( )	1,200	1,956	230	1,256	9,303	10,542	9,306
セグメントに対応する資産	710,477	144,654	354,097	240,197	767,062	716,472	416,711

	電力・ インフラ (百万円)	プラント・ 産業機械 (百万円)	金融・物流・ 情報 (百万円)	海外支店・ 現地法人 (百万円)	全社及び 消去等 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
対外部売上高	82,150	92,978	46,708	213,182	16,874	2,617,148
セグメント間内部売上高	10	4,253	4,204	253,262	339,521	
合計	82,160	97,231	50,912	466,444	322,647	2,617,148
売上総利益	4,085	7,401	10,317	21,068	1,457	121,701
持分法による投資損益	10,152	775	1,194	197	352	26,679
当社株主に帰属する 四半期純利益又は純損失( )	8,043	2,767	1,831	1,599	424	47,149
セグメントに対応する資産	570,794	280,540	185,820	509,934	628,878	5,525,636

(注) 1 売上高については、日本の投資家の便宜を考慮して日本の会計慣行に従い表示しております。

2 セグメント間取引は、通常の市場価格によって行われております。

3 「全社及び消去等」の当社株主に帰属する四半期純利益又は純損失には、特定のオペレーティング・セグメントに配賦されないコーポレートスタッフ部門をはじめとした本部経費、セグメント間の内部取引消去、開発建設事業に関する損益が含まれております。また、「全社及び消去等」のセグメントに対応する資産には、全社目的のために保有され特定のオペレーティング・セグメントに配賦されない資産、セグメント間の内部取引消去、開発建設事業に関する資産が含まれております。全社目的のための資産は、主に資金調達に関連した現金及び現金同等物、全社目的で保有している市場性のある有価証券、固定資産等により構成されております。

## 10 金融商品

### 金融商品の公正価値

公正価値の見積りは入手しうる市場情報又は他の適切な評価方法によっております。しかしながら、公正価値を見積る際の市場情報の解釈には判断が要求されるため、その見積金額は現在の市場で実現する又は払込まれる金額であるとは限りません。

当社及び連結子会社は金融商品の公正価値の開示に際し以下の方法と仮定を使用しております。

### 現金及び現金同等物並びに定期預金：

現金及び現金同等物並びに定期預金の連結貸借対照表上の帳簿価額は概ね公正価値であります。

### 有価証券並びに投資有価証券及びその他の投資：

負債証券の公正価値は、公表市場価格又は同じ償還期限を有する同様の負債証券に適用される現在の市場金利率に基づき、割引キャッシュ・フローによって見積っております。

市場性のある持分証券の公正価値は公表市場価格に基づいております。市場性のある持分証券の連結貸借対照表上の帳簿価額は公正価値であります。

負債証券及び市場性のある持分証券以外の投資に係る公正価値の見積りは多額な費用の発生が予想されるため、実務的ではありません。前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末現在のそれぞれの帳簿価額159,005百万円及び155,270百万円は取得原価であり、一時的でないとは判断される価値の下落は生じていないと考えております。

上記の投資額のうち、前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末現在の市場性のない有価証券のそれぞれの帳簿価額は100,240百万円及び94,321百万円であります。このうち、投資の公正価値に著しく不利な影響を及ぼす事象や状況の変化が見られなかったため、減損の評価を行っていない投資の前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末現在のそれぞれの帳簿価額は100,147百万円及び94,320百万円であります。

負債証券及び市場性のある有価証券の連結貸借対照表上の帳簿価額と公正価値は、四半期連結財務諸表に対する注記4に記載しております。

### 長期営業債権及び長期貸付金並びに関連会社に対する長期債権：

長期営業債権及び長期貸付金並びに関連会社に対する長期債権の公正価値は、同程度の信用格付の長期営業債権及び長期貸付金に適用される現在の金利率に基づき、割引キャッシュ・フローによって見積っております。

### 短期借入金：

短期借入金の連結貸借対照表上の帳簿価額は概ね公正価値であります。

### 長期債務：

長期債務の公正価値は、同じ償還期限を有する同形態の借入契約に適用される現在の金利率に基づき、割引キャッシュ・フローによって見積っております。

### 金利スワップ契約：

金利スワップ契約の公正価値は、同じ残存期間を有する同形態のスワップ契約に適用される現在のスワップ金利率に基づき割引キャッシュ・フローによって見積っております。

### 為替予約：

為替予約の公正価値は期日の差異を調整した後の公表市場価格をもって見積っております。

### 商品先物・先渡等：

商品先物・先渡等の公正価値は、主に期日の差異を調整した後の公表市場価格をもって見積っております。

前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末現在の金融商品の帳簿価額及び公正価値は次の通りであります。なお、長期債務には、一年以内に期限の到来するものを含めております。

前連結会計年度末

項目	帳簿価額(百万円)	公正価値(百万円)
長期営業債権及び長期貸付金並びに関 連会社に対する長期債権 (貸倒引当金控除後)	127,297	127,357
長期債務( )	2,476,981	2,485,206
デリバティブ取引(資産)		
金利スワップ	17,266	17,266
為替予約等	8,212	8,212
商品先物・先渡等	62,623	62,623
デリバティブ取引(負債)		
金利スワップ( )	3,019	3,019
為替予約等( )	8,622	8,622
商品先物・先渡等( )	60,402	60,402

当第3四半期連結会計期間末

項目	帳簿価額(百万円)	公正価値(百万円)
長期営業債権及び長期貸付金並びに関 連会社に対する長期債権 (貸倒引当金控除後)	146,231	146,622
長期債務( )	2,671,968	2,677,850
デリバティブ取引(資産)		
金利スワップ	23,373	23,373
為替予約等	17,322	17,322
商品先物・先渡等	57,433	57,433
デリバティブ取引(負債)		
金利スワップ( )	3,765	3,765
為替予約等( )	53,332	53,332
商品先物・先渡等( )	48,172	48,172

## 11 公正価値の測定

当社及び連結子会社は、特定の資産及び負債を公正価値で測定しております。公正価値の測定のために使われるインプットは、市場における観察可能性に応じて以下の3つのレベルに区分されております。

レベル1：活発な市場における同一資産又は同一負債の調整不要の市場価格

レベル2：レベル1に属さない、直接的又は間接的に観察可能なインプット

レベル3：観察不能なインプット

前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末現在において、当社及び連結子会社が経常的に公正価値で測定している資産及び負債は次の通りであります。

	前連結会計年度末				当第3四半期連結会計期間末			
	レベル1 (百万円)	レベル2 (百万円)	レベル3 (百万円)	合計 (百万円)	レベル1 (百万円)	レベル2 (百万円)	レベル3 (百万円)	合計 (百万円)
<b>資 産</b>								
現金同等物及び定期預金	-	227,000	-	227,000	-	344,000	-	344,000
有価証券								
持分証券	2,437	1	-	2,438	-	93	-	93
負債証券	-	-	-	-	-	3	-	3
投資有価証券								
持分証券	147,228	-	-	147,228	109,037	-	-	109,037
負債証券	-	266	23,826	24,902	-	261	17,603	17,864
デリバティブ取引								
金利取引	-	17,266	-	17,266	-	23,373	-	23,373
為替取引	-	8,212	-	8,212	-	17,322	-	17,322
商品取引	38,961	22,327	1,335	62,623	39,454	17,330	596	57,380
その他	-	-	-	-	53	-	-	53
<b>負 債 ( )</b>								
デリバティブ取引								
金利取引	-	3,019	-	3,019	-	3,765	-	3,765
為替取引	-	8,622	-	8,622	-	53,332	-	53,332
商品取引	39,141	20,046	1,215	60,402	31,472	16,207	493	48,172

レベル1に区分されている有価証券及び投資有価証券は市場性のある持分証券であり、デリバティブ取引は主に商品に係るデリバティブ取引であります。これらは活発な市場における調整不要な市場価格によって評価しております。

レベル2に区分されている現金同等物及び定期預金は主に譲渡性預金であります。有価証券及び投資有価証券は主に公社債であり、デリバティブ取引は主に商品に係るデリバティブ取引、金利スワップ及び為替予約等であります。これらはレベル1には属さない、活発ではない市場における同一資産の市場価格、あるいは活発な市場における類似資産又は類似負債として評価され、商品取引所の市場価格、外国為替相場及び金利等の観察可能なインプットを使用して、主にマーケットアプローチで評価しております。

レベル3に区分された有価証券及び投資有価証券は主に公社債であり、デリバティブ取引は主に信用リスク及び商品に係るデリバティブ取引であります。これらは、活発な市場における類似資産又は負債がない、または極端な流動性の低下等により市場価格が歪められている等の理由で観察可能なインプットが使用できないため、合理的に入手可能なインプットや多くの市場参加者が合理的だとして採用しているインプット等によって、主にマーケットアプローチで評価しております。

なお、当社及び連結子会社は、これらの資産及び負債のレベル間振替を各四半期連結会計期間末毎に認識することとしております。

前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間、前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間において、当社及び連結子会社が経常的に公正価値で測定しているレベル3の資産及び負債の増減は次の通りであります。

前第3四半期連結累計期間

	有価証券	投資有価証券	デリバティブ取引	
	負債証券 (百万円)	負債証券 (百万円)	商品取引 (百万円)	信用取引 (百万円)
期首残高(資産/負債( ))	1,251	16,454	8	34
損益	359	-	2,918	34
その他の包括損益	222	29	6	-
購入	-	-	-	-
売却	-	-	-	-
決済	-	-	2,790	-
償還	403	-	-	-
振替	-	6,934	-	-
レベル3への(からの)振替	-	-	27	-
前第3四半期連結会計期間末残高 (資産/負債( ))	985	23,359	141	-
前第3四半期連結会計期間末の 資産及び負債に係る損益	-	-	146	-

四半期連結損益計算書上、上記の損益は、主に「有価証券売却損益」、「その他の損益-純額」又は「商品の販売等に係る原価」に含まれております。

当第3四半期連結累計期間

	有価証券	投資有価証券	デリバティブ取引	
	負債証券 (百万円)	負債証券 (百万円)	商品取引 (百万円)	信用取引 (百万円)
期首残高(資産/負債( ))	-	23,826	120	-
損益	-	481	862	-
その他の包括損益	-	304	-	-
購入	-	-	-	-
売却	-	6,400	-	-
決済	-	-	845	-
償還	-	-	-	-
振替	-	-	-	-
レベル3への(からの)振替	-	-	-	-
当第3四半期連結会計期間末残高 (資産/負債( ))	-	17,603	103	-
当第3四半期連結会計期間末の 資産及び負債に係る損益	-	-	105	-

四半期連結損益計算書上、上記の損益は、主に「有価証券売却損益」、「商品の販売等に係る原価」に含まれております。

前第3四半期連結会計期間

	有価証券	投資有価証券	デリバティブ取引	
	負債証券 (百万円)	負債証券 (百万円)	商品取引 (百万円)	信用取引 (百万円)
期首残高(資産/負債( ))	975	23,261	244	-
損益	-	-	2,351	-
その他の包括損益	10	98	10	-
購入	-	-	-	-
売却	-	-	-	-
決済	-	-	1,987	-
償還	-	-	-	-
振替	-	-	-	-
レベル3への(からの)振替	-	-	31	-
前第3四半期連結会計期間末残高 (資産/負債( ))	985	23,359	141	-
前第3四半期連結会計期間末の 資産及び負債に係る損益	-	-	143	-

四半期連結損益計算書上、上記の損益は、主に「有価証券売却損益」、「商品の販売等に係る原価」に含まれておりま  
す。

当第3四半期連結会計期間

	有価証券	投資有価証券	デリバティブ取引	
	負債証券 (百万円)	負債証券 (百万円)	商品取引 (百万円)	信用取引 (百万円)
期首残高(資産/負債( ))	-	23,327	45	-
損益	-	481	116	-
その他の包括損益	-	195	2	-
購入	-	-	-	-
売却	-	6,400	-	-
決済	-	-	176	-
償還	-	-	-	-
振替	-	-	-	-
レベル3への(からの)振替	-	-	-	-
当第3四半期連結会計期間末残高 (資産/負債( ))	-	17,603	103	-
当第3四半期連結会計期間末の 資産及び負債に係る損益	-	-	104	-

四半期連結損益計算書上、上記の損益は、主に「有価証券売却損益」、「商品の販売等に係る原価」に含まれておりま  
す。

前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間において、当社及び連結子会社が非経常的に公正価値により測定している資産は次の通りであります。

	前第3四半期連結累計期間 における公正価値の測定値		当第3四半期連結累計期間 における公正価値の測定値	
	レベル3 (百万円)	合計 (百万円)	レベル3 (百万円)	合計 (百万円)
資 産				
投資有価証券及び関連会社に対する投資	21,864	21,864	93	93
賃貸固定資産、有形固定資産、のれん及び無形固定資産	212	212	518	518

市場性のない投資有価証券については取得原価で、関連会社に対する投資については取得原価に取得時以来の未分配利益及び未処理損失に対する持分相当額を調整した価額で計上しておりますが、投資先の業績予想等による回復可能性、純資産額等による実質価値の下落率等により総合的に判断した結果、一時的ではないと判断される価値の下落がある場合には、公正価値まで減額し、減損を認識しております。また、連結子会社の支配の喪失を伴う所有持分の変動がある場合には、継続保有持分を公正価値で再測定しております。これらの結果、前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間においてそれぞれ純額で1,520百万円（利益）及び465百万円（損失）の評価損益を計上しており、前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間においてそれぞれ純額で2,166百万円（利益）及び2百万円（損失）の評価損益を計上しております。

非経常的に公正価値により測定される非金融資産は、主に賃貸固定資産、有形固定資産、のれん及び無形固定資産があります。賃貸固定資産、有形固定資産及び償却性無形固定資産については、帳簿価額が回収できない可能性を示す事象や状況の変化が生じた場合で、資産の帳簿価額と予想割引前キャッシュ・フローの総額を比較し、帳簿価額が回収できないと判断された場合には公正価値まで減額し、減損を認識しております。また、のれん及び耐用年数が不確定の無形固定資産については、少なくとも連結会計年度ごとに減損処理の要否を検討の上で、減損が必要と判断される場合には公正価値まで減額し、減損を認識しております。これらの結果、前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間においてそれぞれ386百万円及び450百万円の評価損を計上しており、前第3四半期連結会計期間において240百万円の評価損を計上しており、当第3四半期連結会計期間においては評価損を計上しておりません。

これらの公正価値の評価技法は、投資先や資産から生み出される将来予想キャッシュ・フロー等をインプットとして割引キャッシュ・フロー法等を用いて行っております。

前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末現在において、当社及び連結子会社が貸借対照表においては公正価値で測定していないものの、公正価値を算出している資産及び負債としては、長期営業債権及び長期貸付金並びに関連会社に対する長期債権と長期債務が該当します。これらの公正価値の測定のために使われるインプットはレベル3に区分され、これらの公正価値の測定のために用いられた評価技法及び入力情報の説明は注記10に記載しております。

## 12 デリバティブ取引及びヘッジ活動

### リスク管理体制

当社及び一部の連結子会社は、通常の営業活動において、為替、金利、商品等に係る市場リスクに晒されており、これらのリスクを回避するためにデリバティブ取引（ヘッジ会計上のヘッジ手段として指定した非デリバティブ金融商品を含む）を行っております。また、これらヘッジ目的のデリバティブ取引の他、当社及び一部の連結子会社はトレーディング目的でのデリバティブ取引を行っております。このような取引については、厳密なポジションと損失の限度額を設定し、実際のポジション及び損益状況を定期的にマネジメントに報告しております。また、取引先による契約不履行等による信用危険の負担がありますが、特定相手への取引の集中を避けるとともに、取引先を厳選し、与信管理を行うことでこのようなリスクを極小化しております。さらに当社及び一部の連結子会社は、通常それぞれの取引相手とマスターネットリング契約を交わしております。マスターネットリング契約により、特定の環境下で倒産隔離が可能となり、これらの取引から生じる信用リスクを減少させます。

当社及び一部の連結子会社においては、デリバティブ取引を実行する部署と取引先との取引確認を行う部署を分離させ、後者に外部との個別取引及び月末残高の確認を行わせております。東京本社においては、リスク管理部門として「リスクマネジメント部」が独立して、各種リスクの分析及びマネジメントへの報告、財務活動全般に対する管理・牽制を行っております。また金融子会社や海外現地法人が行っているデリバティブの取引データも入手し、関係部署と連携して定期的にマネジメントに報告を行う等デリバティブ取引の一元管理体制の強化も行っております。

### 為替リスクの管理

当社及び一部の連結子会社は様々な通貨で取引を行っており、これらの取引から生じる外貨建債権・債務及び外貨建確定契約の公正価値の変動リスクをヘッジするため、通貨スワップ等のデリバティブ取引を行っております。また、外貨建債権・債務、外貨建確定契約及び外貨建予定取引のキャッシュ・フローを固定化するため、為替予約等のデリバティブ取引を行っております。さらに、在外事業体に対する純投資の為替変動リスクをヘッジするため、為替予約等を利用しております。

### 金利リスクの管理

当社及び一部の連結子会社は、固定利付資産・負債に係る固定金利を変動化するため、また変動利付資産・負債に係る変動金利を固定化するため、金利スワップ等のデリバティブ取引を行っております。

### 商品価格リスクの管理

当社及び一部の連結子会社は、たな卸資産、商品売買の確定契約及び商品売買の予定取引に係る価格変動リスクをヘッジするため、商品先物、商品先渡、商品スワップ、商品オプションを行っております。

### 公正価値ヘッジ

当社及び一部の連結子会社は、公正価値ヘッジとして主に外貨建債権・債務及び外貨建確定契約に係る公正価値の変動リスクをヘッジするための通貨スワップ、たな卸資産及び商品売買の確定契約に係る公正価値の変動リスクをヘッジするための商品先物・先渡、及び固定利付資産・負債に係る固定金利を変動化するための金利スワップを指定しております。前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間において、ヘッジの非有効部分及びヘッジの有効性評価から除外した部分に関し損益認識した金額に重要性はありません。また、確定契約がヘッジ対象として不適格となったことにより損益認識した金額に重要性はありません。

### キャッシュ・フローヘッジ

当社及び一部の連結子会社は、キャッシュ・フローヘッジとして主に外貨建債権・債務、外貨建確定契約及び外貨建予定取引のキャッシュ・フローを固定化するための為替予約、変動利付資産・負債に係る変動金利を固定化するための金利スワップ、及び商品売買の予定取引に係るキャッシュ・フローを固定化するための商品先物・先渡を指定しております。前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間において、ヘッジの非有効部分及びヘッジの有効性評価から除外した部分に関し損益認識した金額に重要性はありません。また、予定取引の発生が見込まれなくなったために、その他の包括損益累計額から損益に再分類した金額に重要性はありません。

当第3四半期連結会計期間末現在、その他の包括損益累計額（税効果考慮前）に計上されており、輸出入取引の発生又は金利の受払いにより一年以内に損益へ振り替えられる見積額は135百万円（利益）であります。

当第3四半期連結会計期間末現在、予定取引（現存する金融商品に係る変動金利の受払いを除く）に係るキャッシュ・フロー変動リスクのヘッジ最長期間は平成48年12月までであります。

在外事業体に対する純投資のヘッジ

当社は、在外事業体に対する純投資の為替変動リスクをヘッジするため、主に為替予約を利用しております。前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間において、ヘッジの非有効部分及びヘッジの有効性評価から除外した部分に関し損益認識した金額に重要性はありません。

デリバティブ取引の公正価値

前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末現在における、当社及び一部の連結子会社の、ヘッジ会計適用とヘッジ会計不適用のデリバティブ取引に係る公正価値は次の通りであります。

前連結会計年度末

区分	資産デリバティブ		負債デリバティブ	
	前連結会計年度末		前連結会計年度末	
	貸借対照表項目	公正価値 (百万円)	貸借対照表項目	公正価値 (百万円)
ヘッジ会計適用のデリバティブ取引				
金利取引	前払費用及びその他の流動資産	1,401	未払費用及びその他の流動負債	97
	その他の資産	15,805	長期債務	2,854
為替取引	現金及び現金同等物	33	短期借入金	8,308
	定期預金	834	一年以内に期限の到来する 長期債務	616
	売掛金	102	未払費用及びその他の流動負債	4,381
	前払費用及びその他の流動資産	4,316	長期債務	130,272
	その他の資産	1,567		-
商品取引	前払費用及びその他の流動資産	33,433	未払費用及びその他の流動負債	35,831
	その他の資産	1,749	長期債務	1,091
ヘッジ会計適用のデリバティブ取引 計		59,240		183,450
ヘッジ会計不適用のデリバティブ取引				
金利取引	前払費用及びその他の流動資産	60	未払費用及びその他の流動負債	68
為替取引	前払費用及びその他の流動資産	909	未払費用及びその他の流動負債	359
	その他の資産	1,621	長期債務	2,204
商品取引	前払費用及びその他の流動資産	26,276	未払費用及びその他の流動負債	22,660
	その他の資産	1,165	長期債務	820
ヘッジ会計不適用のデリバティブ取引 計		30,031		26,111
デリバティブ取引 合計		89,271		209,561

当第3四半期連結会計期間末

区分	資産デリバティブ		負債デリバティブ	
	当第3四半期連結会計期間末		当第3四半期連結会計期間末	
	貸借対照表項目	公正価値 (百万円)	貸借対照表項目	公正価値 (百万円)
ヘッジ会計適用のデリバティブ取引				
金利取引	前払費用及びその他の流動資産	674	未払費用及びその他の流動負債	648
	その他の資産	22,683	長期債務	3,069
為替取引	現金及び現金同等物	2,845	買掛金	792
	売掛金	890	短期借入金	7,527
	前払費用及びその他の流動資産	8,033	一年以内に期限の到来する 長期債務	874
	その他の資産	3,432	未払費用及びその他の流動負債	39,742
		-	長期債務	172,858
商品取引	前払費用及びその他の流動資産	32,530	未払費用及びその他の流動負債	25,320
	その他の資産	979	長期債務	484
その他	前払費用及びその他の流動資産	6		-
	その他の資産	47		-
ヘッジ会計適用のデリバティブ取引 計		72,119		251,314
ヘッジ会計不適用のデリバティブ取引				
金利取引	前払費用及びその他の流動資産	16	未払費用及びその他の流動負債	48
為替取引	前払費用及びその他の流動資産	5,315	未払費用及びその他の流動負債	11,923
	その他の資産	542	長期債務	557
商品取引	前払費用及びその他の流動資産	23,265	未払費用及びその他の流動負債	22,015
	その他の資産	606	長期債務	353
ヘッジ会計不適用のデリバティブ取引 計		29,744		34,896
デリバティブ取引 合計		101,863		286,210

(注) ヘッジ会計適用の為替取引には、ヘッジ手段として指定した非デリバティブ金融商品を含めております。非デリバティブ金融商品については、期末日(前連結会計年度末における公正価値については前連結会計年度末日)の為替レートで円貨に換算した帳簿価額にて表示しております。

デリバティブ取引関連の損益

前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間、前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間における、当社及び一部の連結子会社の、ヘッジ会計適用とヘッジ会計不適用のデリバティブ取引に係る損益は次の通りであります。

前第3四半期連結累計期間

公正価値ヘッジのデリバティブ取引

区分	損益計算書項目	損益計算書 認識額
		前第3四半期 連結累計期間 (百万円)
金利取引	支払利息	5,537
為替取引	その他の損益 - 純額	2,313
商品取引	商品の販売等に係る原価	8,686
合計		5,462

(注) 為替取引には、ヘッジ手段として指定した非デリバティブ金融商品に係る損益を含めております。

キャッシュ・フローヘッジのデリバティブ取引

区分	その他の包括損益 (税効果考慮前) 認識額 (ヘッジ有効部分)	その他の包括損益 累計額(税効果考 慮前)から損益に 再分類したものの 損益計算書項目 (ヘッジ有効部分)	その他の包括損益累計額 (税効果考慮前)から 損益に再分類した金額 (ヘッジ有効部分)
	前第3四半期 連結累計期間 (百万円)		前第3四半期 連結累計期間 (百万円)
金利取引	1,219	支払利息	1,293
為替取引	1,438	その他の損益 - 純額	598
商品取引	1,218	商品の販売等に係る原価	792
合計	1,439		1,487

在外事業体に対する純投資のヘッジのデリバティブ取引

区分	その他の包括損益 (税効果考慮前) 認識額 (ヘッジ有効部分)	その他の包括損益 累計額(税効果考 慮前)から損益に 再分類したものの 損益計算書項目 (ヘッジ有効部分)	その他の包括損益累計額 (税効果考慮前)から 損益に再分類した金額 (ヘッジ有効部分)
	前第3四半期 連結累計期間 (百万円)		前第3四半期 連結累計期間 (百万円)
為替取引	13,850	有価証券売却損益	276
合計	13,850		276

(注) ヘッジ手段として指定した非デリバティブ金融商品に係る損益を含めております。

ヘッジ会計不適用のデリバティブ取引

区分	損益計算書項目	損益計算書 認識額
		前第3四半期 連結累計期間 (百万円)
商品取引	商品の販売等に係る原価	9,485
その他の取引	その他の損益 - 純額	928
合計		10,413

当第3四半期連結累計期間

公正価値ヘッジのデリバティブ取引

区分	損益計算書項目	損益計算書 認識額
		当第3四半期 連結累計期間 (百万円)
金利取引	支払利息	5,897
為替取引	その他の損益 - 純額	883
商品取引	商品の販売等に係る原価	13,180
その他	有価証券評価損	53
合計		6,347

(注) 為替取引には、ヘッジ手段として指定した非デリバティブ金融商品に係る損益を含めております。

キャッシュ・フローヘッジのデリバティブ取引

区分	その他の包括損益 (税効果考慮前) 認識額 (ヘッジ有効部分)	その他の包括損益 累計額(税効果考 慮前)から損益に 再分類したものの 損益計算書項目 (ヘッジ有効部分)	その他の包括損益累計額 (税効果考慮前)から 損益に再分類した金額 (ヘッジ有効部分)
	当第3四半期 連結累計期間 (百万円)		当第3四半期 連結累計期間 (百万円)
金利取引	1,432	支払利息	1,007
為替取引	3,330	その他の損益 - 純額	993
商品取引	1,273	商品の販売等に係る原価	1,607
合計	3,171		3,607

在外事業体に対する純投資のヘッジのデリバティブ取引

区分	その他の包括損益 (税効果考慮前) 認識額 (ヘッジ有効部分)	その他の包括損益 累計額(税効果考 慮前)から損益に 再分類したものの 損益計算書項目 (ヘッジ有効部分)	その他の包括損益累計額 (税効果考慮前)から 損益に再分類した金額 (ヘッジ有効部分)
	当第3四半期 連結累計期間 (百万円)		当第3四半期 連結累計期間 (百万円)
為替取引	15,154		-
合計	15,154		-

(注) ヘッジ手段として指定した非デリバティブ金融商品に係る損益を含めております。

ヘッジ会計不適用のデリバティブ取引

区分	損益計算書項目	損益計算書 認識額
		当第3四半期 連結累計期間 (百万円)
商品取引	商品の販売等に係る原価	1,492
	その他の損益 - 純額	425
その他の取引	その他の損益 - 純額	5,138
合計		6,205

前第3四半期連結会計期間

公正価値ヘッジのデリバティブ取引

区分	損益計算書項目	損益計算書 認識額
		前第3四半期 連結会計期間 (百万円)
金利取引	支払利息	511
為替取引	その他の損益 - 純額	665
商品取引	商品の販売等に係る原価	876
合計		300

(注) 為替取引には、ヘッジ手段として指定した非デリバティブ金融商品に係る損益を含めております。

キャッシュ・フローヘッジのデリバティブ取引

区分	その他の包括損益 (税効果考慮前) 認識額 (ヘッジ有効部分)	その他の包括損益 累計額(税効果考 慮前)から損益に 再分類したものの 損益計算書項目 (ヘッジ有効部分)	その他の包括損益累計額 (税効果考慮前)から 損益に再分類した金額 (ヘッジ有効部分)
	前第3四半期 連結会計期間 (百万円)		前第3四半期 連結会計期間 (百万円)
金利取引	149	支払利息	357
為替取引	1,139	その他の損益 - 純額	205
商品取引	1,232	商品の販売等に係る原価	104
合計	56		48

在外事業体に対する純投資のヘッジのデリバティブ取引

区分	その他の包括損益 (税効果考慮前) 認識額 (ヘッジ有効部分)	その他の包括損益 累計額(税効果考 慮前)から損益に 再分類したものの 損益計算書項目 (ヘッジ有効部分)	その他の包括損益累計額 (税効果考慮前)から 損益に再分類した金額 (ヘッジ有効部分)
	前第3四半期 連結会計期間 (百万円)		前第3四半期 連結会計期間 (百万円)
為替取引	8,935	有価証券売却損益	276
合計	8,935		276

(注) ヘッジ手段として指定した非デリバティブ金融商品に係る損益を含めております。

ヘッジ会計不適用のデリバティブ取引

区分	損益計算書項目	損益計算書 認識額
		前第3四半期 連結会計期間 (百万円)
商品取引	商品の販売等に係る原価	843
その他の取引	その他の損益 - 純額	596
合計		1,439

当第3四半期連結会計期間

公正価値ヘッジのデリバティブ取引

区分	損益計算書項目	損益計算書 認識額
		当第3四半期 連結会計期間 (百万円)
金利取引	支払利息	1,263
為替取引	その他の損益 - 純額	1,802
商品取引	商品の販売等に係る原価	12,935
その他	有価証券評価損	29
合計		12,367

(注) 為替取引には、ヘッジ手段として指定した非デリバティブ金融商品に係る損益を含めております。

キャッシュ・フローヘッジのデリバティブ取引

区分	その他の包括損益 (税効果考慮前) 認識額 (ヘッジ有効部分)	その他の包括損益 累計額(税効果考 慮前)から損益に 再分類したものの 損益計算書項目 (ヘッジ有効部分)	その他の包括損益累計額 (税効果考慮前)から 損益に再分類した金額 (ヘッジ有効部分)
	当第3四半期 連結会計期間 (百万円)		当第3四半期 連結会計期間 (百万円)
金利取引	39	支払利息	273
為替取引	4,670	その他の損益 - 純額	1,143
商品取引	1,092	商品の販売等に係る原価	225
合計	3,539		645

在外事業体に対する純投資のヘッジのデリバティブ取引

区分	その他の包括損益 (税効果考慮前) 認識額 (ヘッジ有効部分)	その他の包括損益 累計額(税効果考 慮前)から損益に 再分類したものの 損益計算書項目 (ヘッジ有効部分)	その他の包括損益累計額 (税効果考慮前)から 損益に再分類した金額 (ヘッジ有効部分)
	当第3四半期 連結会計期間 (百万円)		当第3四半期 連結会計期間 (百万円)
為替取引	19,512		-
合計	19,512		-

(注) ヘッジ手段として指定した非デリバティブ金融商品に係る損益を含めております。

ヘッジ会計不適用のデリバティブ取引

区分	損益計算書項目	損益計算書 認識額
		当第3四半期 連結会計期間 (百万円)
商品取引	商品の販売等に係る原価	4,605
	その他の損益 - 純額	9
その他の取引	その他の損益 - 純額	5,446
合計		10,060

### クレジット・デリバティブ

当社及び一部の連結子会社は、従来より、クレジット・デリバティブの売手として、主にクレジット・デフォルト・スワップ契約の締結やローン担保証券等のクレジット・デリバティブの組み込まれた金融商品を保有しておりますが、前連結会計年度末より、該当取引を保有しておりません。

### 13 約定及び偶発債務

当社及び一部の連結子会社は、金属関連、機械関連等の様々な商品に関して固定価格又は変動価格による長期購入契約を締結しております。通常、これらの購入契約に対し、見合いとなる販売契約を締結しております。

当社及び一部の連結子会社は、通常の事業の一環として関連会社及び一般取引先（以下「被保証者」という。）の負っている義務に対し、様々な保証を行っておりますが、主たる保証は、被保証者の外部借入金等に対する返済を第三者に対し保証するものであります。被保証者が義務の履行を怠った場合、当社及び一部の連結子会社は当該保証契約に従い、債務を履行する義務が発生することとなります。

前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末現在における保証総額は、それぞれ249,945百万円及び270,850百万円であり、このうち関連会社に係る金額は、それぞれ172,566百万円及び192,280百万円であります。保証総額は、履行可能性の程度にかかわらず、契約上想定しうる将来最大支払額を表示しております。従って保証総額は通常、保証に基づく偶発損失とは関係なく、これを大幅に上回るものであります。また、これらの保証契約の中には、当社及び一部の連結子会社が第三者による再保証等を受けているものもあります。前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末現在における、第三者による再保証等の金額は、それぞれ21,058百万円及び21,366百万円であり、このうち関連会社に係る金額は、それぞれ18,274百万円及び18,887百万円であります。これらの保証のうち期間が最長のものは、平成49年に期日を迎えます。なお、前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末現在における、保証契約に対して負債として認識されている金額は、それぞれ1,212百万円及び1,215百万円であります。

当社では、被保証者を受益者として当社が保証を差入れるに当たり、被保証者について、財務諸表等の情報に基づき事前審査を行った上で、その信用力に応じた信用度ランクを付与し、適正な信用限度の設定や必要な保全措置を講じることにより、保証履行リスクの管理を実施しております。当第3四半期連結会計期間末現在において、四半期連結財務諸表に対し重大な影響を及ぼす保証の履行を行う可能性は僅かで見込んでおり、損失が見込まれるものに対しては所要の引当金を計上しております。

前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末現在における輸出手形割引残高は、それぞれ13,358百万円及び9,774百万円あります。当該手形が決済されなかった場合、当社及び一部の連結子会社は銀行との取引約定に従ってその手形に対する買戻しを要求されることとなります。

当社、子会社及び関連会社は、全世界的な規模で営業活動を行っており、日本及びそれ以外の地域の諸監督機関の指導監督の下に活動しております。このような営業活動は、リスクを伴うこともあり、時として提訴されたり、クレーム等を受けることもあります。当第3四半期連結会計期間末現在においても、種々の未解決の事項がありますが、将来、当社の連結財務諸表に重要な影響を与えるものではありません。

#### 14 変動持分事業体

当社及び一部の連結子会社は、不動産開発等を目的とする変動持分事業体に対し、議決権の付与とされていない劣後出資証券等を保有しており、当社及び一部の連結子会社が主たる受益者として連結しております。

これらの変動持分事業体の前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末現在における総資産額は126,444百万円及び146,290百万円です。当該変動持分事業体の債権者及び受益持分保有者は、当社及び他の連結子会社に対する遡及権を有していません。

また、当社及び一部の連結子会社は、主たる受益者ではないため連結していないものの、融資事業、リース事業等を目的とする変動持分事業体に対して投資又は融資等を実施し、変動持分を所有しております。

当該変動持分事業体の前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末現在における総資産額は430,230百万円及び410,568百万円であり、また、これらの変動持分事業体に対する想定最大損失額は36,594百万円及び45,477百万円です。なお、想定最大損失額は投資先の資産の価値の下落等から被る可能性のある損失の最大金額であり、変動持分事業体に関与することによる見込損失金額を意味するものではありません。

#### 15 連結子会社の支配の喪失に伴う損益

当社及び連結子会社は、連結子会社の支配の喪失を伴う所有持分の変動については当該変動部分について損益認識するとともに、継続保有持分についても公正価値で再測定の上、損益に含めております。連結子会社の支配の喪失を伴う所有持分の変動について、当該旧連結子会社の継続保有持分を公正価値で再測定することにより前第3四半期連結累計期間及び前第3四半期連結会計期間に認識した損益は2,223百万円（利益）であります。これらの継続保有持分の再測定にあたっては、旧所有持分の売却価額、投資先や資産から生み出される将来予想キャッシュ・フロー等を総合的に勘案して算出した公正価値を用いております。連結子会社の支配の喪失を伴う所有持分の変動により前第3四半期連結累計期間及び前第3四半期連結会計期間に認識した損益は、前記影響額を含め、4,372百万円（利益）であります。これらの損益は有価証券売却損益に含まれております。前記の旧所有持分の売却先はいずれも当社の関係会社ではありません。当該旧連結子会社の中には、支配の喪失後に当社の関連会社となるものが含まれております。

当第3四半期連結累計期間に生じた連結子会社の支配の喪失に伴う損益に重要性はありません。

#### 16 後発事象

当第3四半期連結会計期間末の翌日から、平成25年2月13日の当四半期報告書提出までの事象及び取引を評価した結果、該当事項はありません。

## 2 【その他】

平成24年11月1日開催の取締役会において、平成24年9月30日現在の株主に対し、1株当たり12円、総額20,836百万円の現金配当を支払うことを決議しました。

なお、支払請求の効力発生日及び支払開始日は平成24年12月3日であり、配当の原資は利益剰余金となります。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年2月13日

丸紅株式会社  
取締役会 御中

### 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	瀧澤 徳也 印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	清水 伸幸 印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	渡邊 正 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている丸紅株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成24年10月1日から平成24年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括損益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び四半期連結財務諸表に対する注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」附則第4条の規定により米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準（「四半期連結財務諸表の作成方法等について」参照）に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準（「四半期連結財務諸表の作成方法等について」参照）に準拠して、丸紅株式会社及び連結子会社の平成24年12月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

---

上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。